

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査
結果報告書
(19～39歳)

令和6（2024）年3月
茨木市

目 次

I 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要.....	1
3. 配布・回収結果.....	1
4. 報告書の見方.....	1
II 調査結果.....	2
1. 本人や家族のことについて.....	2
2. 日ごろの意識と生活について.....	7
3. 困難な経験について.....	30
4. 相談窓口・相談機関等について.....	41
5. 地域の活動や子育てを支援する活動について.....	45
6. 茨木市での暮らしや意見について.....	48
7. 自由意見.....	53
III 調査結果からみえてきた今後の課題.....	55
1. 相談窓口・相談機関の周知.....	55
2. 多様な相談方法・相談機能の充実.....	55
3. ヤングケアラー支援を進めるための相談機能の充実.....	55
4. 将来に夢と希望を抱き、進みたい道を描けるための支援.....	56
5. ひきこもりの長期化を防ぐための包括的な支援の充実.....	56
6. 孤独・孤立を解消する居場所の確保・提供.....	56
IV 資料（調査票）.....	57

I 調査の概要

1. 調査の目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)」が令和6(2024)年度末で終了することから、こども基本法に基づく「こども計画」として、本市のこども・若者支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)」(令和7(2025)～令和11(2029)年度)を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の若者の日常生活や就労、社会参加等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2. 調査概要

- (1) 調査地域 茨木市全域
- (2) 調査対象 19歳～39歳の若者
- (3) 対象者数 住民基本台帳から2,000人を無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布－郵送・WEB(併用)回収
- (5) 調査期間 令和5(2023)年10月25日(水)～令和5(2023)年11月20日(月)
(調査期間内にお礼状兼督促状を1回送付)

3. 配布・回収結果

単位：件

配布数	有効回収数		有効回収率
	郵送回答	WEB回答	
2,000	564	305	28.2%

4. 報告書の見方

- グラフおよび表のn数(number of case)、「回答者数」は、有効標本数(集計対象者総数)を表す。
- 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- 性別、年代別等のクロス集計表については、無回答やその他を除いて、1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

Ⅱ 調査結果

1. 本人や家族のことについて

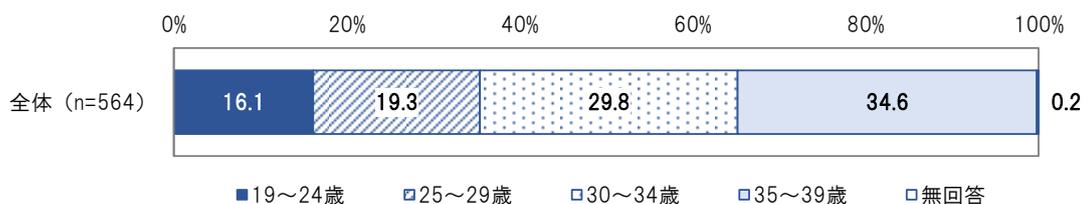
(1) 性別【問1 単数回答】

○性別は、「女性」が62.2%、「男性」が36.7%となっている。



(2) 年齢【問2 単数回答】

○年齢は、「35～39歳」が34.6%と最も高く、次いで「30～34歳」が29.8%、「25～29歳」が19.3%、「19～24歳」が16.1%となっている。



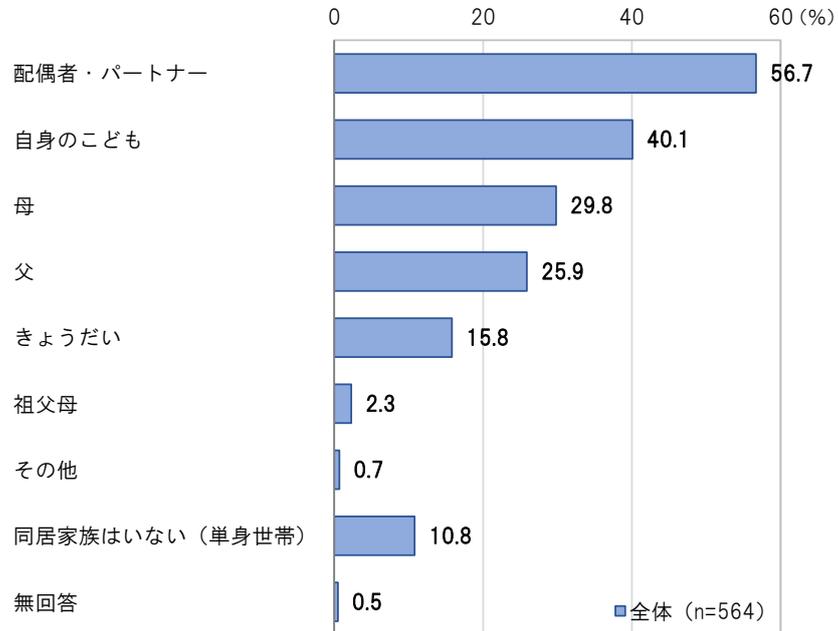
(3) 結婚の有無【問3 単数回答】

○結婚の有無は、「結婚している（事実婚を含む）」が55.5%、「結婚していない」が43.8%となっている。



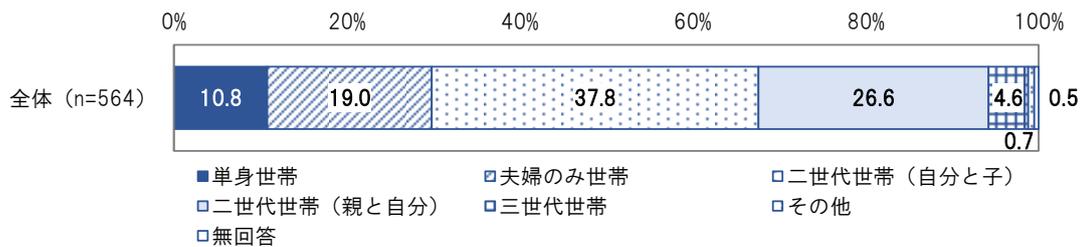
(4) 同居家族【問4 複数回答】

○同居家族は、「配偶者・パートナー」が56.7%と最も高く、次いで「自身の子ども」(40.1%)、「母」(29.8%)、「父」(25.9%)となっている。



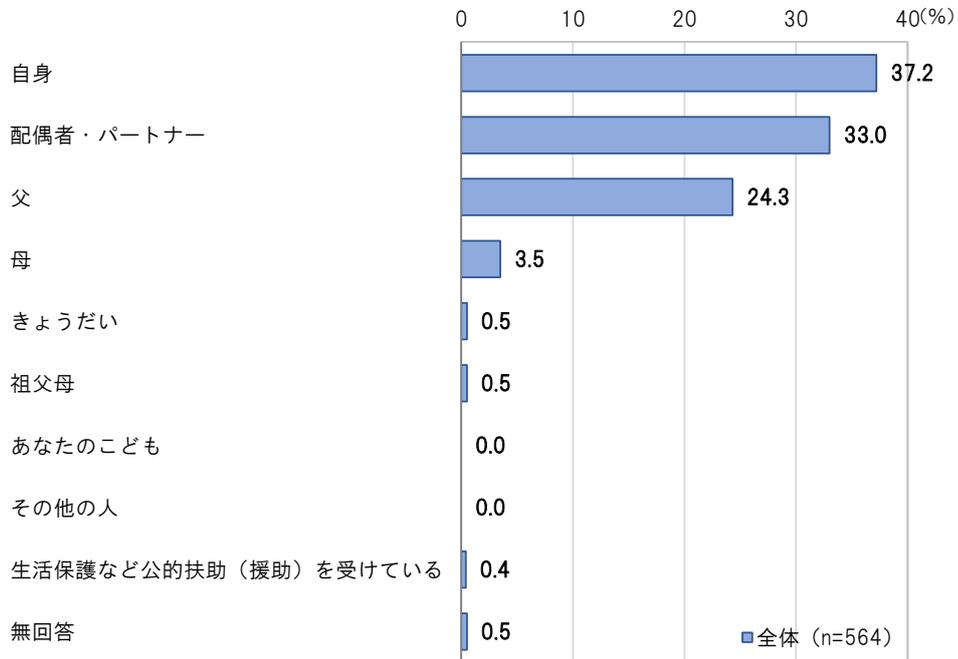
《家族形態集計》

○家族形態は、「二世世代世帯(自分と子)」が37.8%と最も多く、次いで「二世世代世帯(親と自分)」(26.6%)、「夫婦のみ世帯」(19.0%)、「単身世帯」(10.8%)となっている。



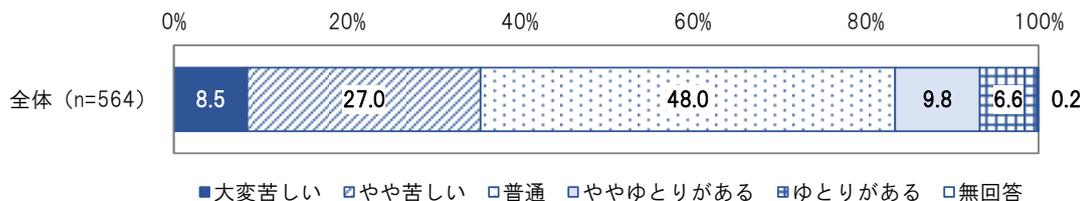
(5) 主に生計を立てている人【問5 単数回答】

○主に生計を立てている人は、「自身」が37.2%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(33.0%)、「父」(24.3%)、「母」(3.5%)となっている。



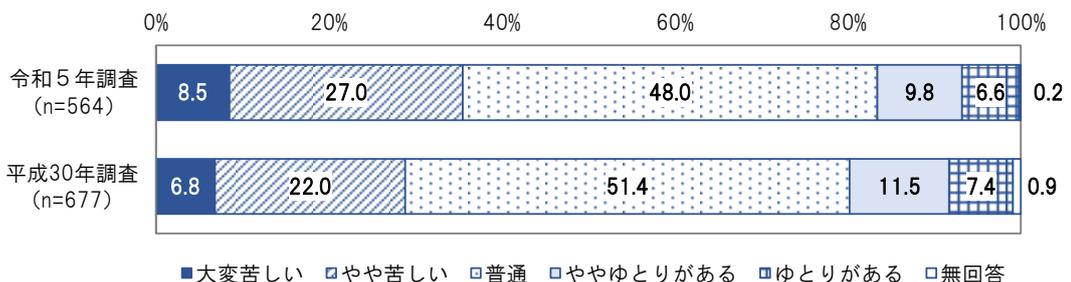
(6) 暮らしの状況【問6 単数回答】

○暮らしの状況は、「普通」が48.0%と最も高く、次いで「やや苦しい」が27.0%となっており、「大変苦しい」(8.5%)と合わせた『苦しい』が3割以上を占めている。



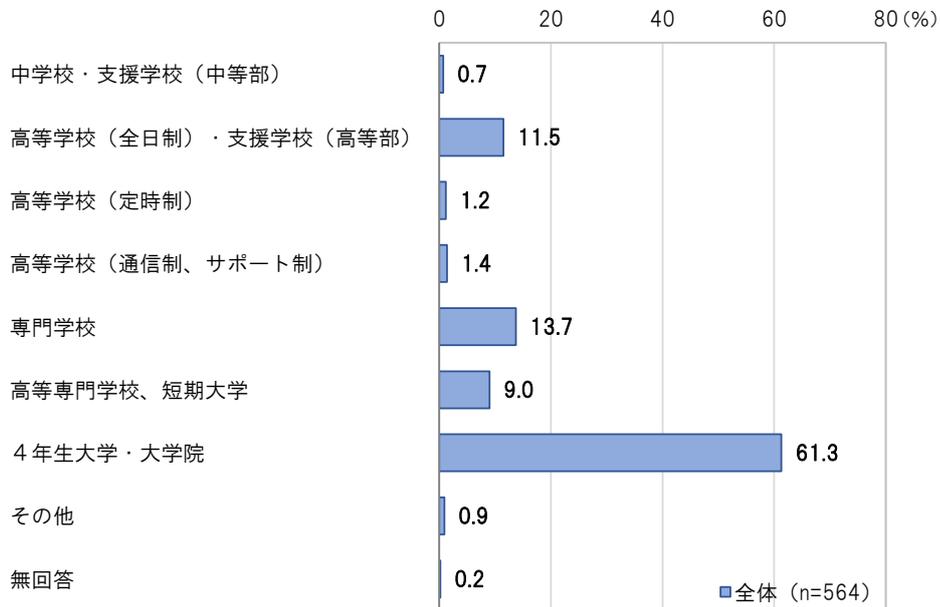
《経年比較》

○平成30年調査と比較すると、『苦しい』がやや高く、「ややゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』がやや低くなっている。



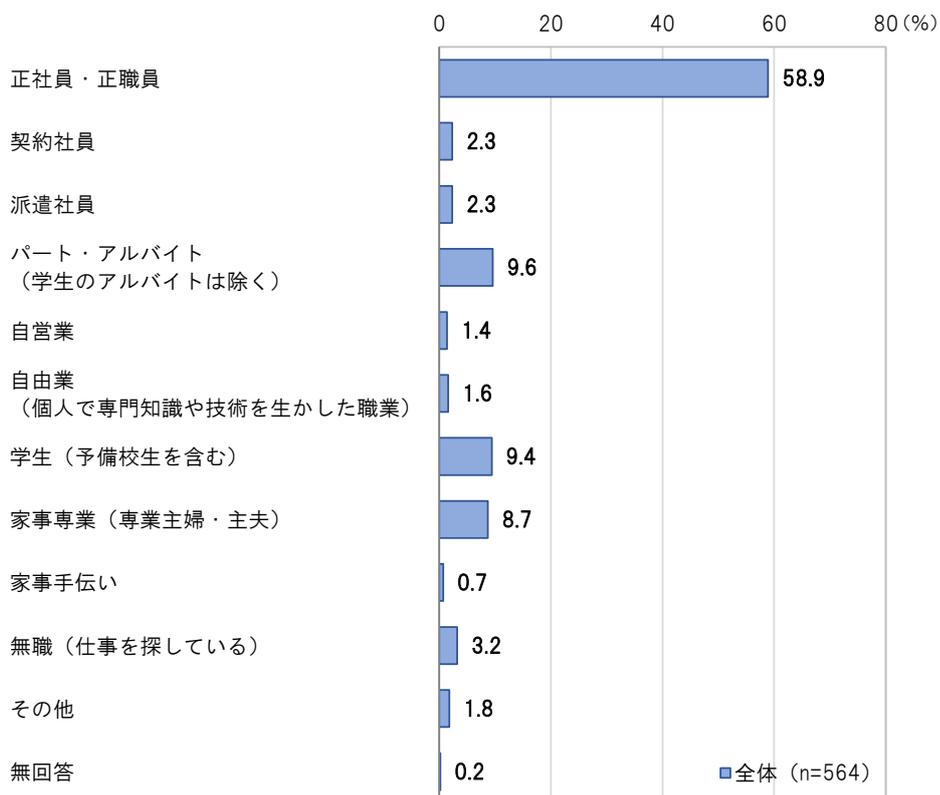
(7) 最後に在学していた（現在在学している）学校【問7 単数回答】

○最後に在学していた（現在在学している）学校は、「4年生大学・大学院」が61.3%と最も高く、次いで「専門学校」（13.7%）、「高等学校（全日制）・支援学校（高等部）」（11.5%）、「高等専門学校、短期大学」（9.0%）となっている。



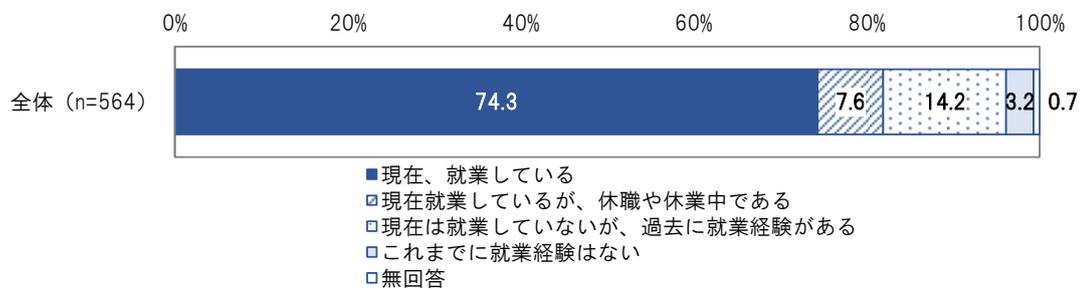
(8) 現在の職業【問8 単数回答】

○現在の職業は、「正社員・正職員」が58.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」（9.6%）、「学生（予備校生を含む）」（9.4%）となっている。



(9) 就業経験【問9 単数回答】

○就業経験は、「現在、就業している」が74.3%と最も高く、次いで「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」(14.2%)、「現在就業しているが、休職や休業中である」(7.6%)となっている。

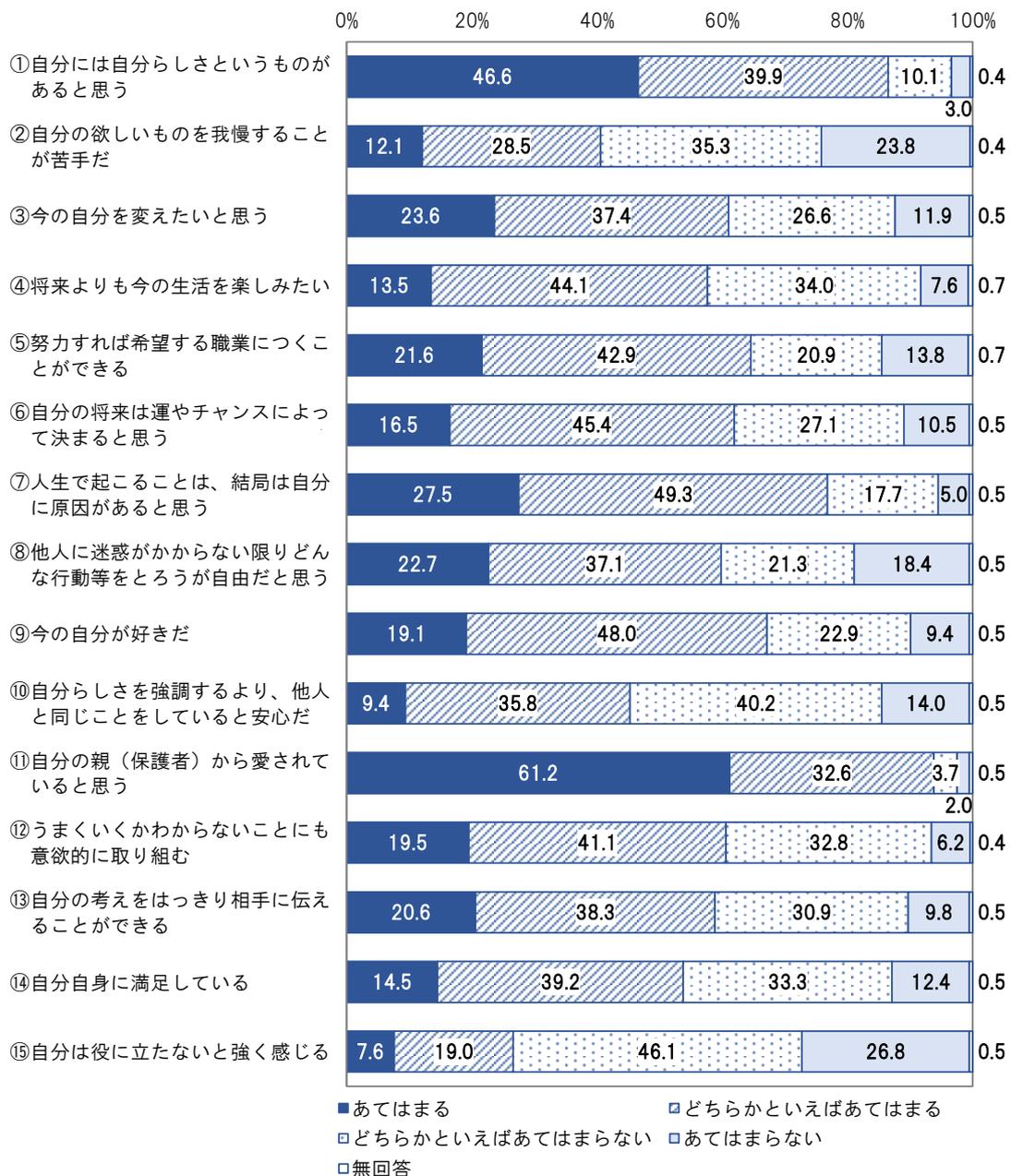


2. 日ごろの意識と生活について

(1) 自身についてあてはまること【問10 単数回答】

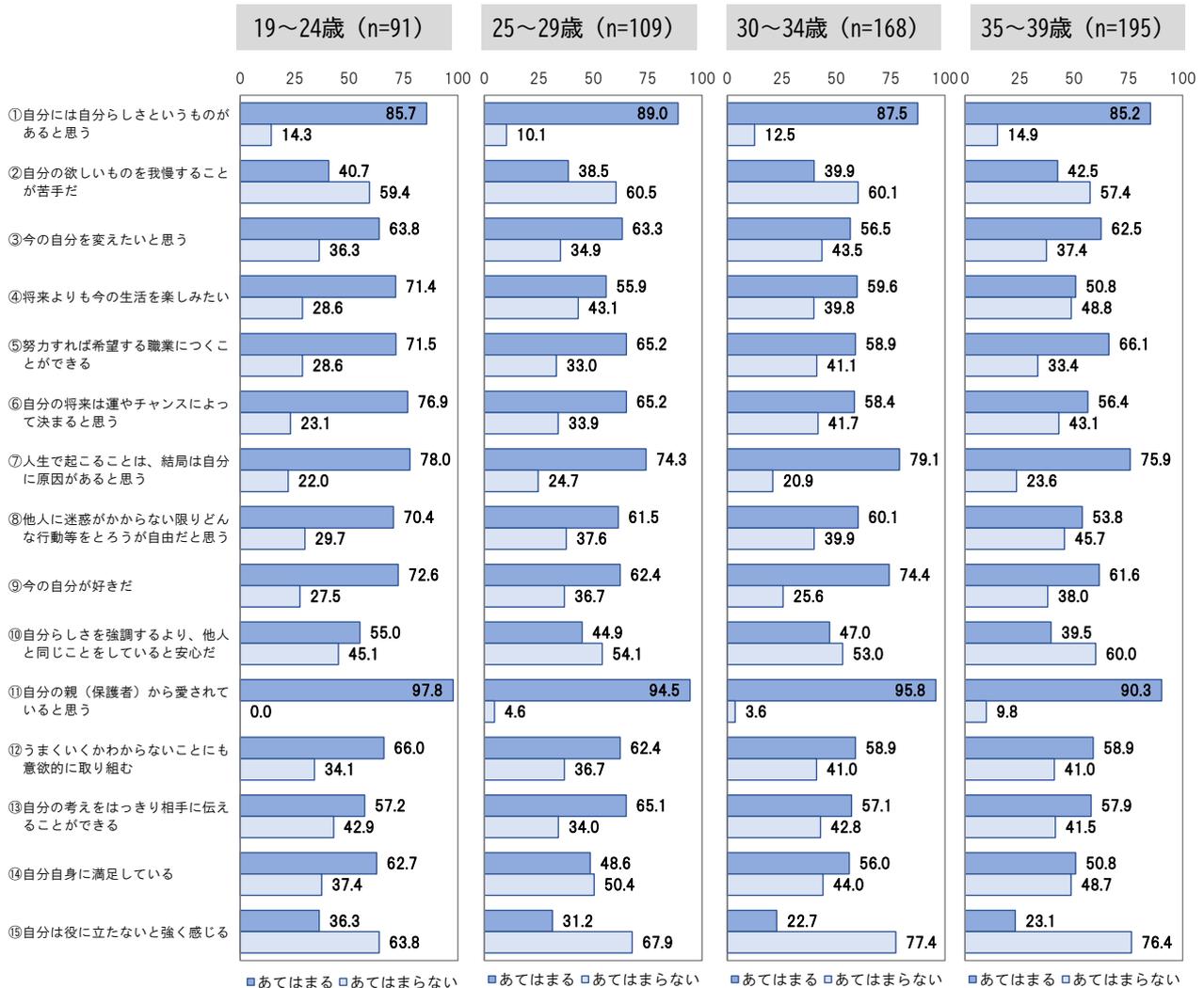
○自身についてあてはまることでは、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合をみると、“⑪自分の親（保護者）から愛されていると思う”で93.8%と最も高く、次いで“①自分には自分らしさというものがあると思う”（86.5%）、“⑦人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う”（76.8%）となっている。

○「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合をみると、“⑤自分は役に立たないと強く感じる”で72.9%と最も高く、次いで“②自分の欲しいものを我慢することが苦手だ”（59.1%）、“⑩自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ”（54.2%）となっている。



《年代別比較》

○「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合と、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合を年代別みると、概ね年代が下がるほど“⑥自分の将来は運やチャンスによって決まると思う”や“⑧他人に迷惑がかからない限りどんな行動等をとろうが自由だと思う”、“⑫うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む”、“⑮自分は役に立たないと強く感じる”で『あてはまる』が高くなる傾向がみられる。

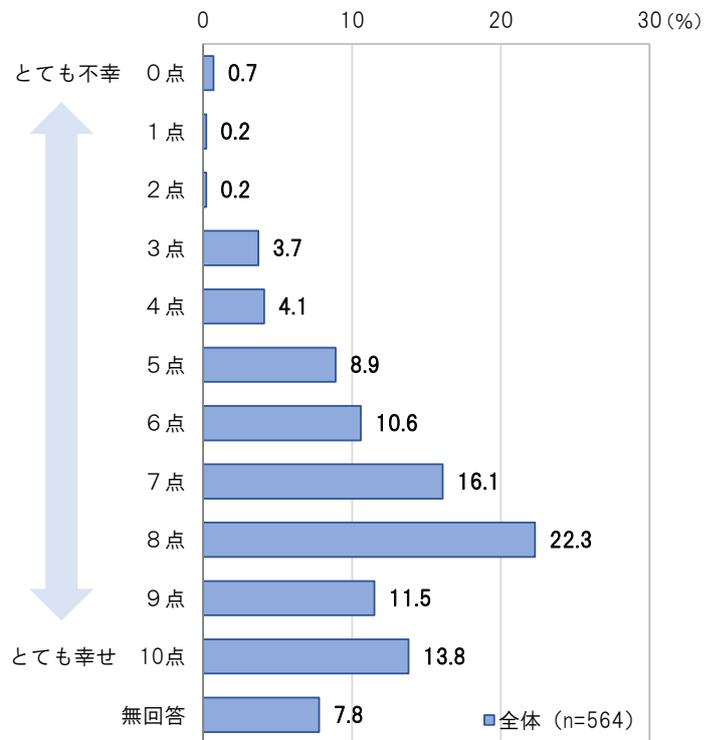


※あてはまる：「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合

あてはまらない：「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合

(2) 幸福感【問11 単数回答】

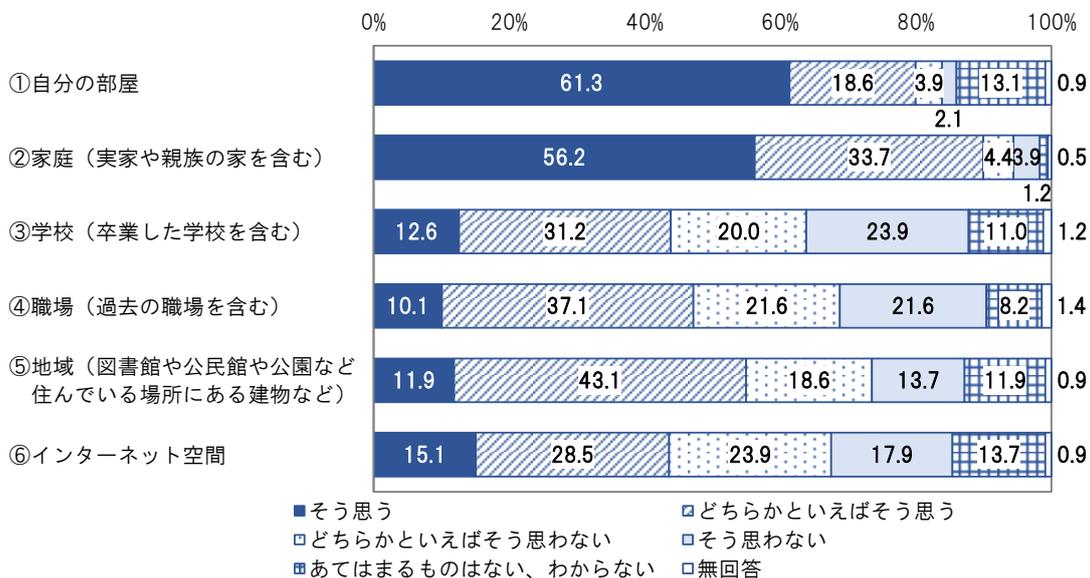
○幸福感は、「8点」が22.3%と最も高く、次いで「7点」(16.1%)、「10点」(13.8%)となっており、平均点は7.27点となっている。



(3) 居場所【問12 単数回答】

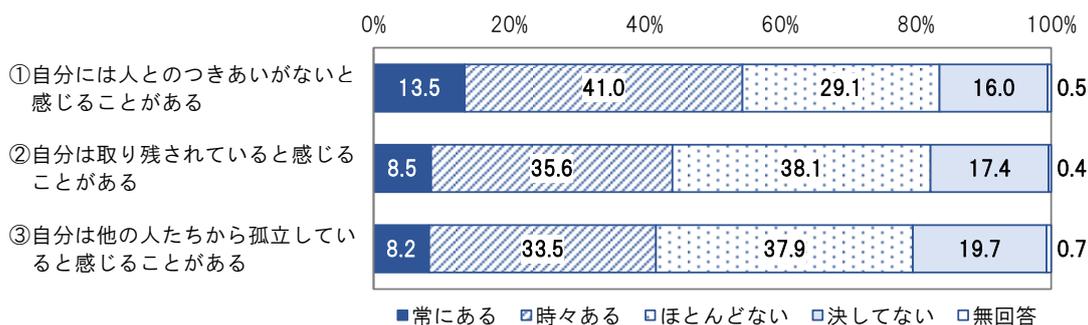
○居場所については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“②家庭 (実家や親族の家を含む)”で89.9%と最も高く、次いで“①自分の部屋”(79.9%)となっている。

○「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“③学校 (卒業した学校を含む)”、“④職場 (過去の職場を含む)”、“⑥インターネット空間”で4割を超えている。



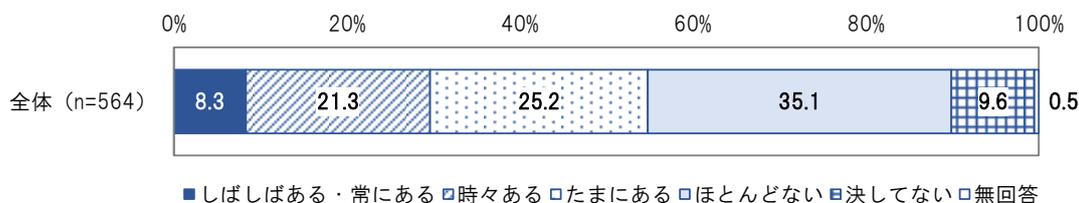
(4) 孤独・孤立について感じる事【問13 単数回答】

- 孤独・孤立について感じる事では、「常にある」と「時々ある」を合わせた『ある』の割合をみると、“①自分には人とのつきあいが無いと感じることがある”で54.5%と最も高く、次いで“②自分は取り残されていると感じることがある”（44.1%）、“③自分は他の人たちから孤立していると感じることがある”（41.7%）となっている。
- 「ほとんどない」と「決してない」を合わせた『ない』の割合をみると、“②自分は取り残されていると感じることがある”、“③自分は他の人たちから孤立していると感じることがある”では半数を超えている。



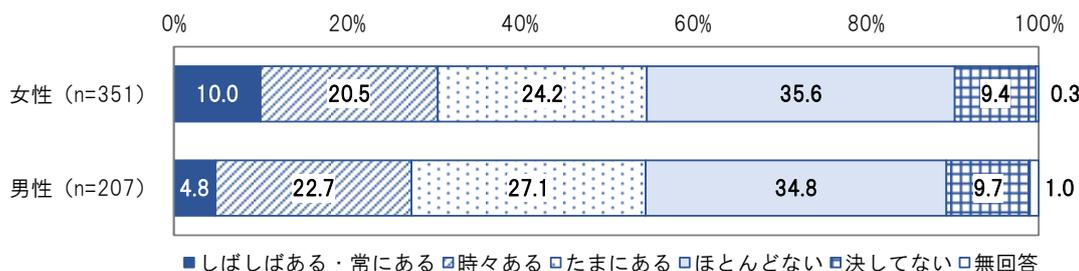
(5) 孤独であると感じる事の有無【問14 単数回答】

- 孤独であると感じる事の有無は、「ほとんどない」が35.1%と最も高くなっているものの、次いで「たまにある」（25.2%）、「時々ある」（21.3%）となっており、「しばしばある・常にある」（8.3%）と合わせると、『ある』が半数以上を占めている。



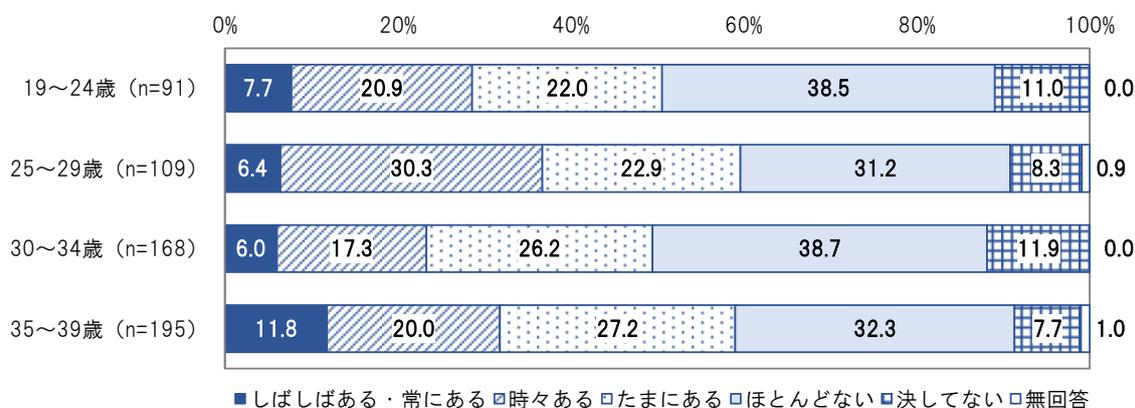
《性別比較》

- 性別にみると、「しばしばある・常にある」が[男性]に比べて[女性]でやや高くなっているものの、『ある』の割合では大きな差異はみられない。



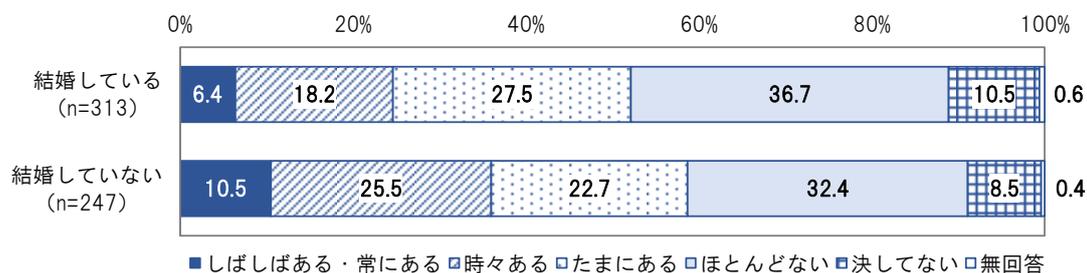
《年代別比較》

○年代別にみると、『ある』の割合が [25～29 歳] [35～39 歳] で約 6 割を占め、その他の年代に比べて高くなっている。



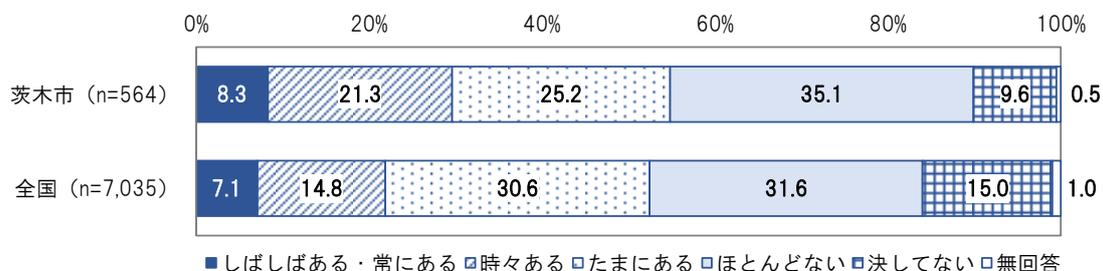
《結婚の有無別比較》

○結婚の有無別にみると、『ある』の割合は [結婚していない] では 6 割近くを占め、[結婚している] を上回っている。



《国調査（令和4年度）比較》

○国の「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、「しばしばある・常にある」と「たまにある」、「時々ある」を合わせた『ある』がやや高くなっている。

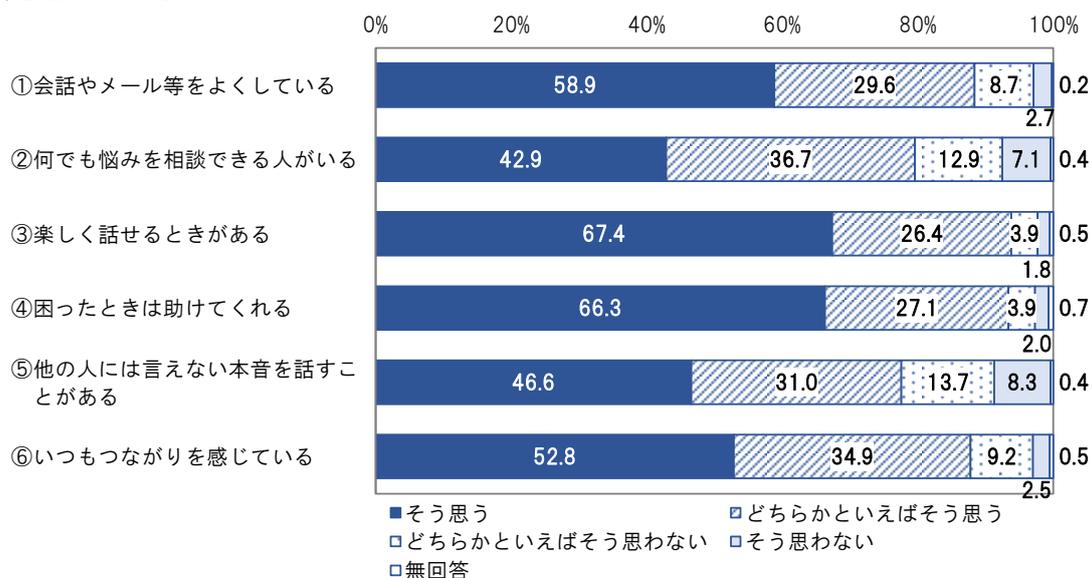


※「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」は、15～39 歳を対象とした調査（以降同様）。

(6) 家族・親族とのかかわり【問15 単数回答】

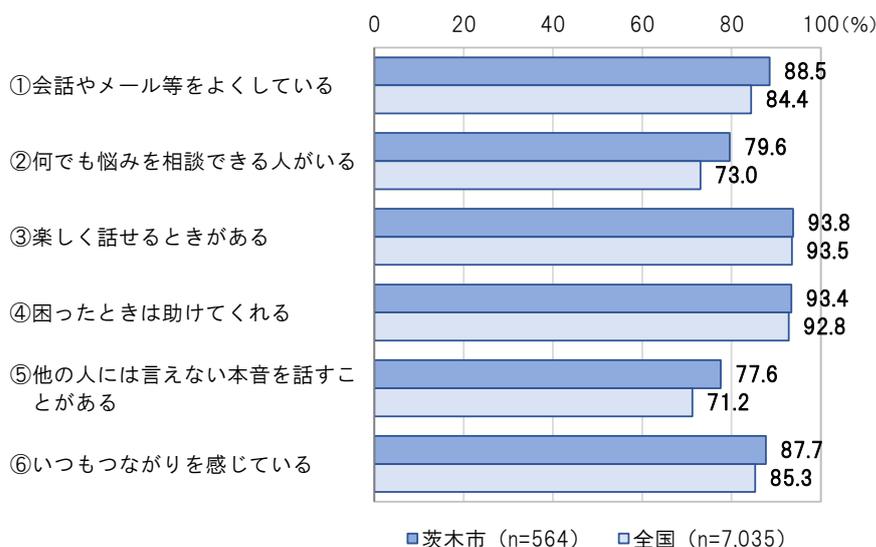
○家族・親族とのかかわりは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“③楽しく話せるときがある”で93.8%と最も高く、次いで“④困ったときは助けてくれる”(93.4%)となっている。

○「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“②何でも悩みを相談できる人がいる”、“⑤他の人には言えない本音を話すことがある”で2割を超えている。



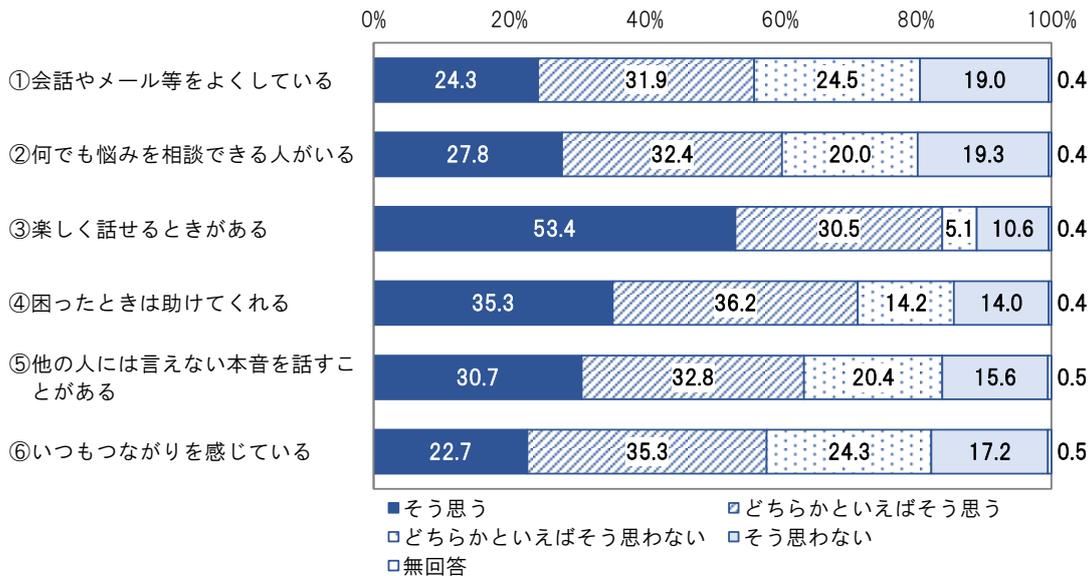
《国調査（令和4年度）比較：『そう思う』の割合》

○『そう思う』の割合について、国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、すべての項目で国に比べて高くなっており、特に“②何でも悩みを相談できる人がいる”、“⑤他の人には言えない本音を話すことがある”では、5ポイント以上上回っている。



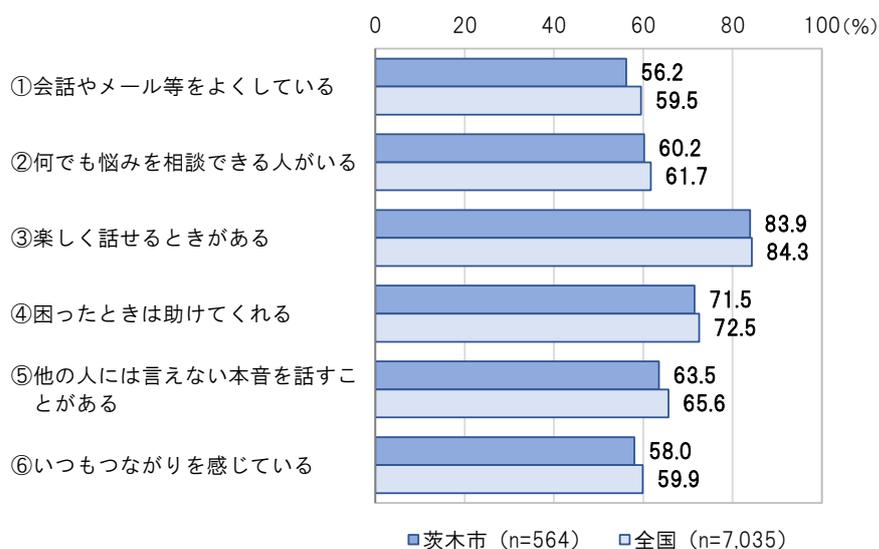
(7) 学校で出会った友人とのかかわり【問 16 単数回答】

- 学校で出会った友人とのかかわりは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“③楽しく話せるときがある”で 83.9%と最も高く、次いで“④困ったときは助けてくれる” (71.5%) となっている。
- 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“①会話やメール等をよくしている”、“⑥いつもつながりを感じている”で4割を超えている。



《国調査（令和4年度）比較：『そう思う』の割合》

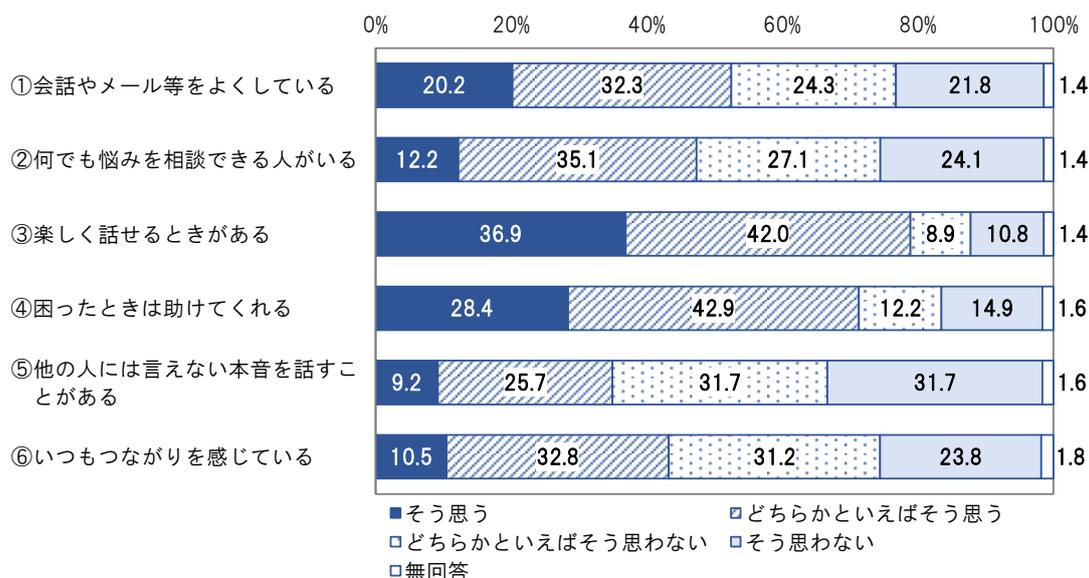
- 『そう思う』の割合について、国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、すべての項目で国に比べてやや低くなっているものの、大きな差異はみられない。



(8) 職場・アルバイト関係の人とのかかわり【問17 単数回答】

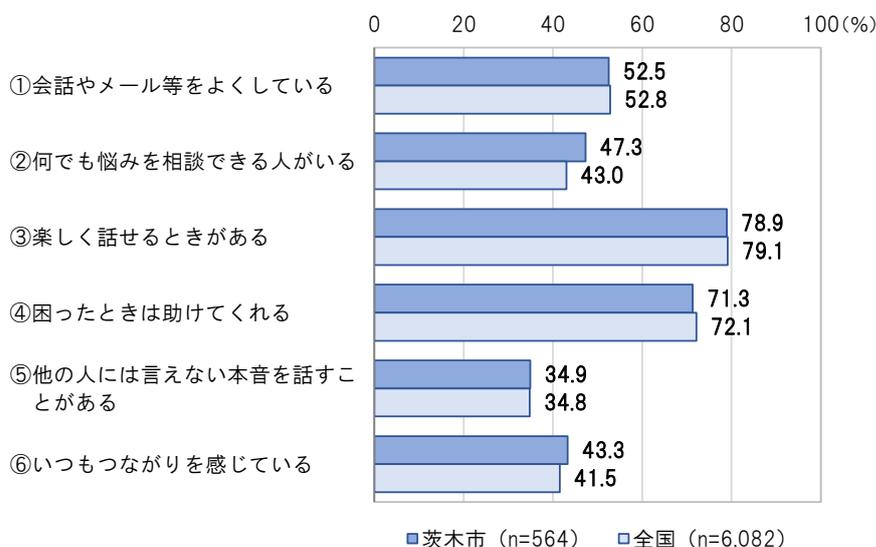
○職場・アルバイト関係の人とのかかわりは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“③楽しく話せるときがある”で78.9%と最も高く、次いで“④困ったときは助けてくれる”(71.3%)となっている。

○「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“⑤他の人には言えない本音を話すことがある”で6割を超えて高くなっている。



《国調査（令和4年度）比較：『そう思う』の割合》

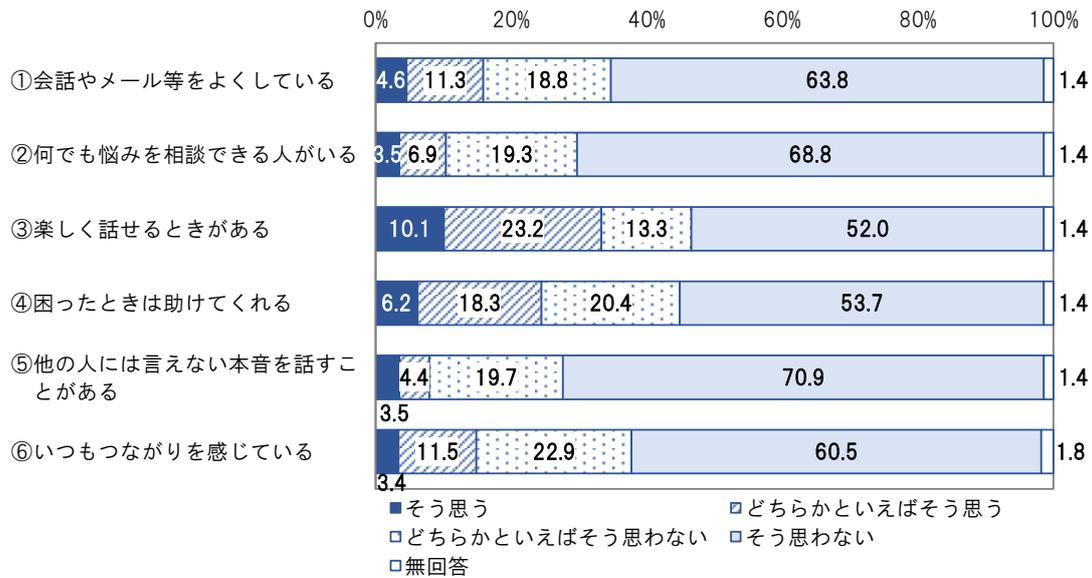
○『そう思う』の割合について、国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、“②何でも悩みを相談できる人がいる”ではやや高くなっているものの、ほぼ同様の結果となっている。



(9) 地域の人とのかかわり【問18 単数回答】

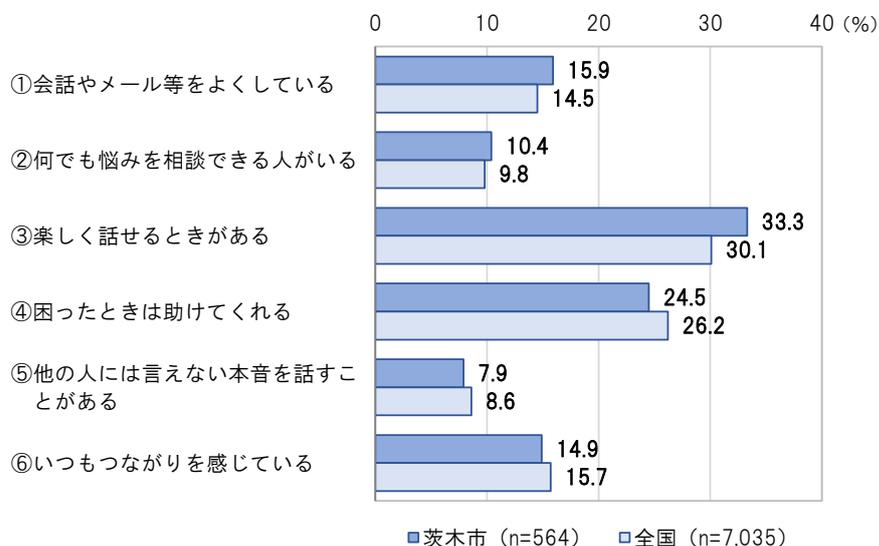
○地域の人とのかかわりは、すべての項目で「そう思わない」が最も高く、「どちらかといえばそう思わない」と合わせた『そう思わない』の割合をみると、“⑤他の人には言えない本音を話すことがある”で90.6%と最も高く、次いで“②何でも悩みを相談できる人がいる”(88.1%)となっている。

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“③楽しく話せるときがある”が3割以上を占めている。



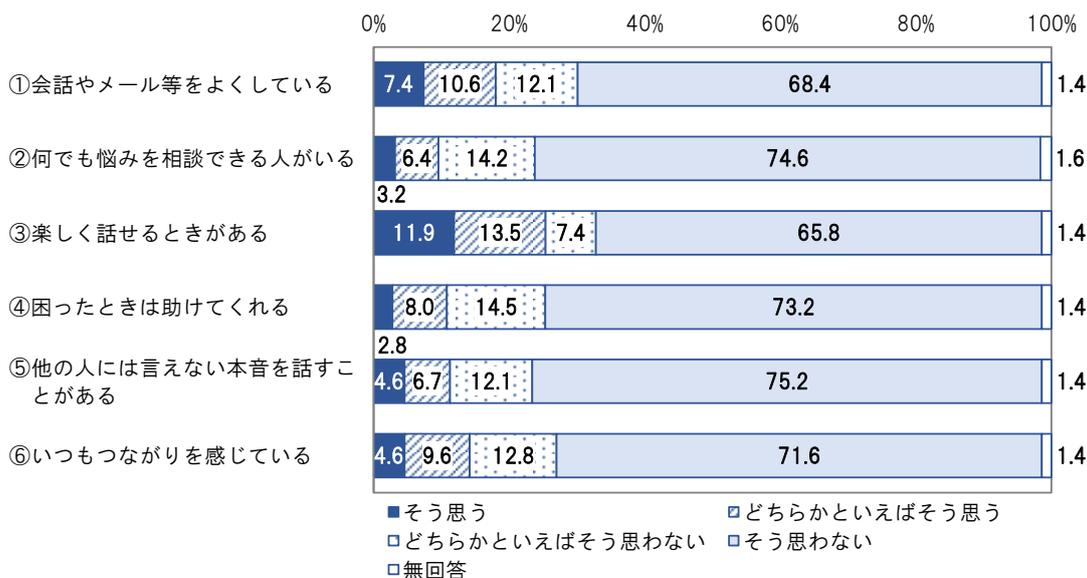
《国調査（令和4年度）比較：『そう思う』の割合》

○『そう思う』の割合について、国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、“①会話やメール等をよくしている”、“②何でも悩みを相談できる人がいる”、“③楽しく話せるときがある”でやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



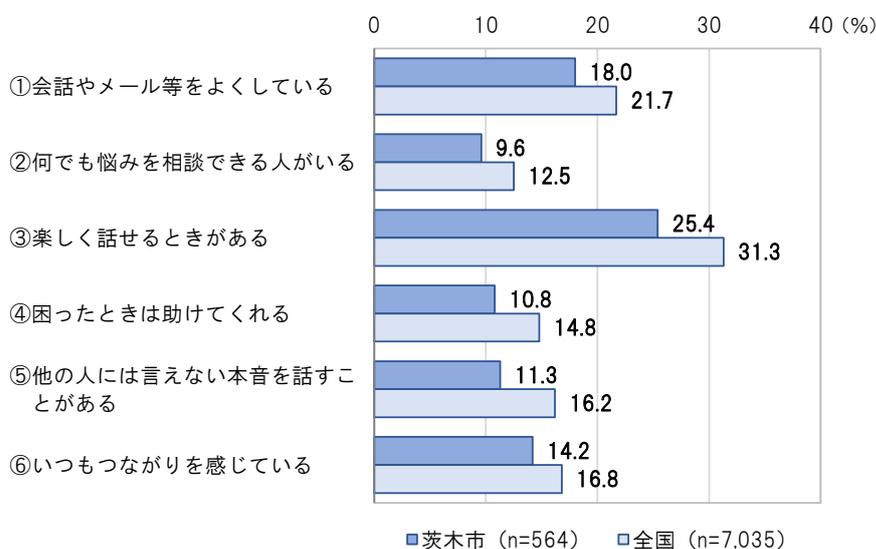
(10) インターネット上における人やグループとのかかわり【問19 単数回答】

- インターネット上における人やグループとのかかわりは、すべての項目で「そう思わない」が最も高く、「どちらかといえばそう思わない」と合わせた『そう思わない』の割合をみると、“②何でも悩みを相談できる人がある”で88.8%と最も高く、次いで“④困ったときは助けてくれる”(87.7%)、“⑤他の人には言えない本音話すことがある”(87.3%)となっている。
- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“③楽しく話せるときがある”が2割以上を占めている。



《国調査（令和4年度）比較：『そう思う』の割合》

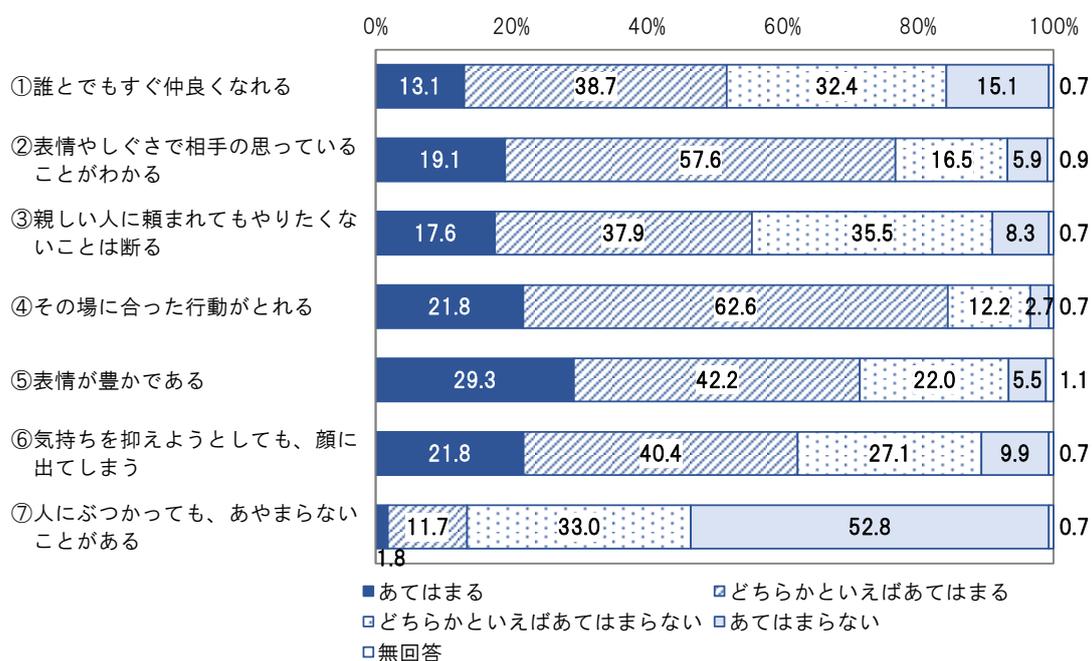
- 『そう思う』の割合について、国の「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、すべての項目で国に比べて低くなっており、特に“③楽しく話せるときがある”では5ポイント以上下回っている。



(11) 他の人との付き合い方について【問20 単数回答】

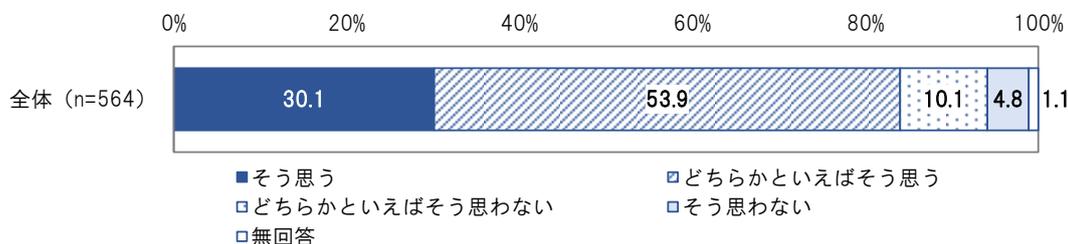
○他の人との付き合い方については、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合をみると、“④その場に合った行動がとれる”で84.4%と最も高く、次いで“②表情やしぐさで相手の思っていることがわかる”(76.7%)、“⑤表情が豊かである”(71.5%)となっている。

○「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合をみると、“⑦人にぶつかっても、あやまらないことがある”で85.8%と最も高く、次いで“①誰とでもすぐ仲良くなれる”(47.5%)、“③親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る”(43.8%)となっている。



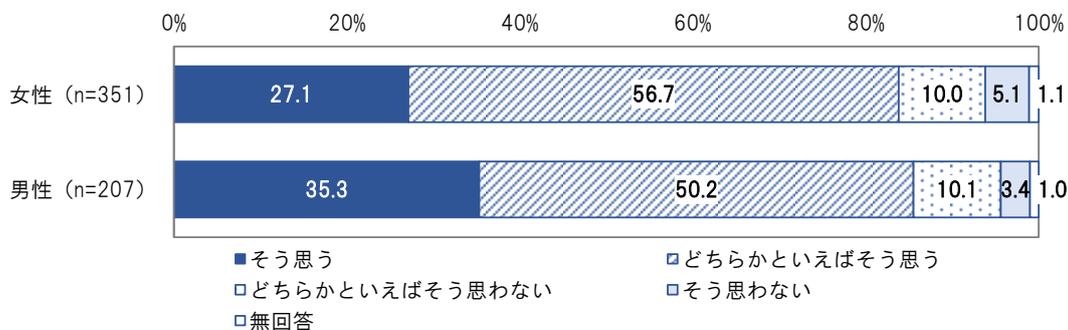
(12) 「社会のために役立つことをしたい」と思うか【問 21 単数回答】

○社会のために役立つことをしたいと思うかでは、「どちらかといえばそう思う」が 53.9%と最も高く、「そう思う」(30.1%)と合わせると、『そう思う』が8割以上を占めている。



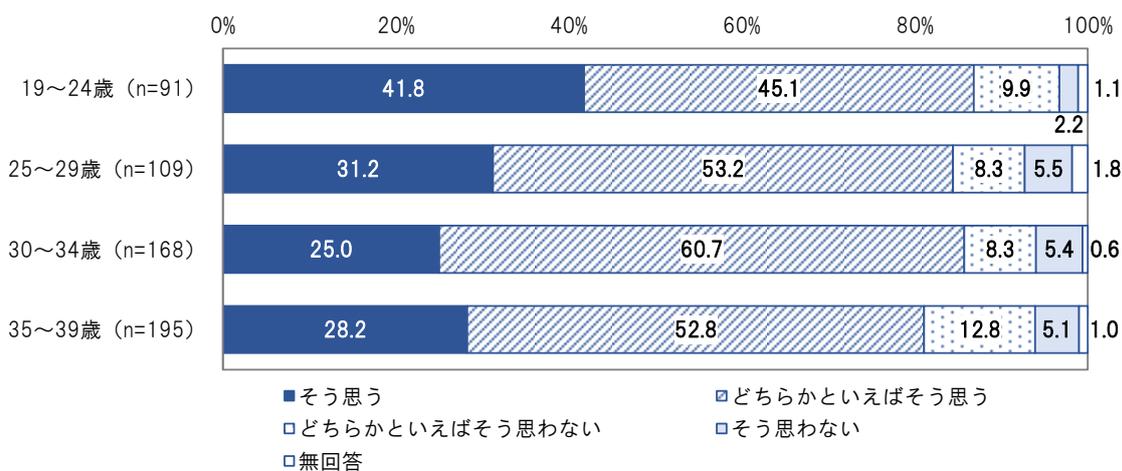
《性別比較》

○性別にみると、「そう思う」が[女性]に比べて[男性]で高くなっているものの、「どちらかといえばそう思う」と合わせた『そう思う』の割合では大きな差異はみられない。



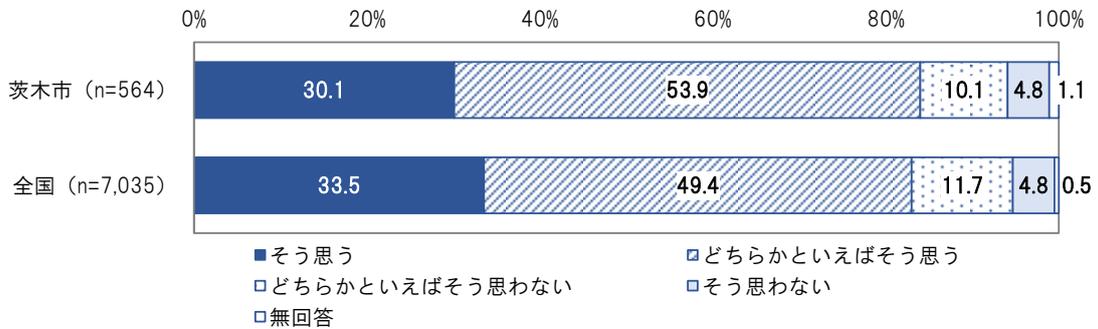
《年代別比較》

○年代別にみると、「そう思う」の割合が[19～24 歳]で4割を超え、その他の年代に比べて高くなっている。



《国調査（令和4年度）比較》

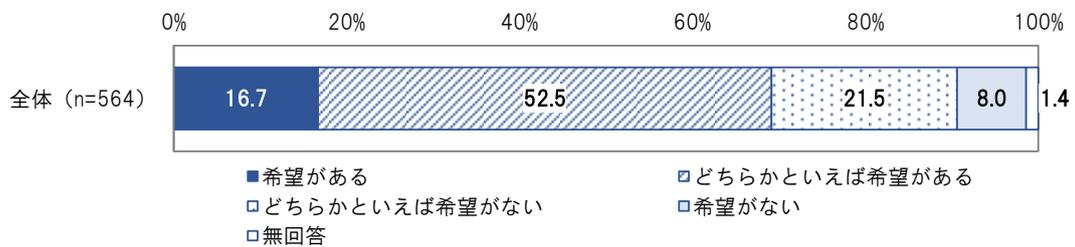
○国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



(13) 自分の将来に明るい希望を持っているか【問22 単数回答】

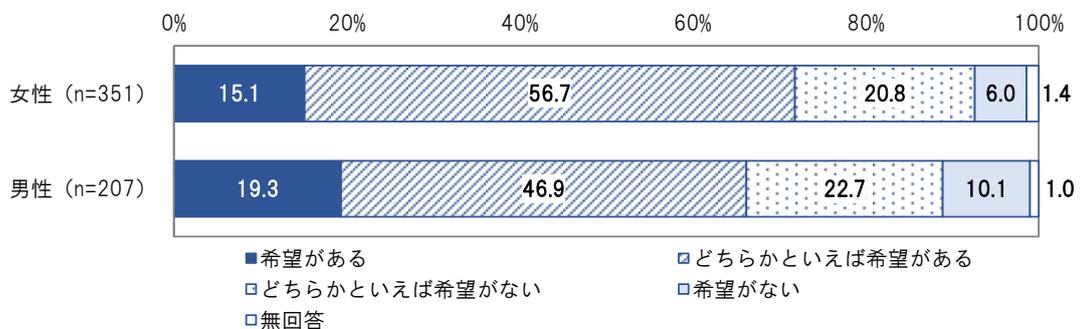
○自分の将来に明るい希望を持っているかでは、「どちらかといえば希望がある」が52.5%と最も高く、「希望がある」(16.7%)と合わせると、『希望がある』が約7割を占めている。

○「どちらかといえば希望がない」(21.5%)と「希望がない」(8.0%)を合わせた『希望がない』は、約3割となっている。



《性別比較》

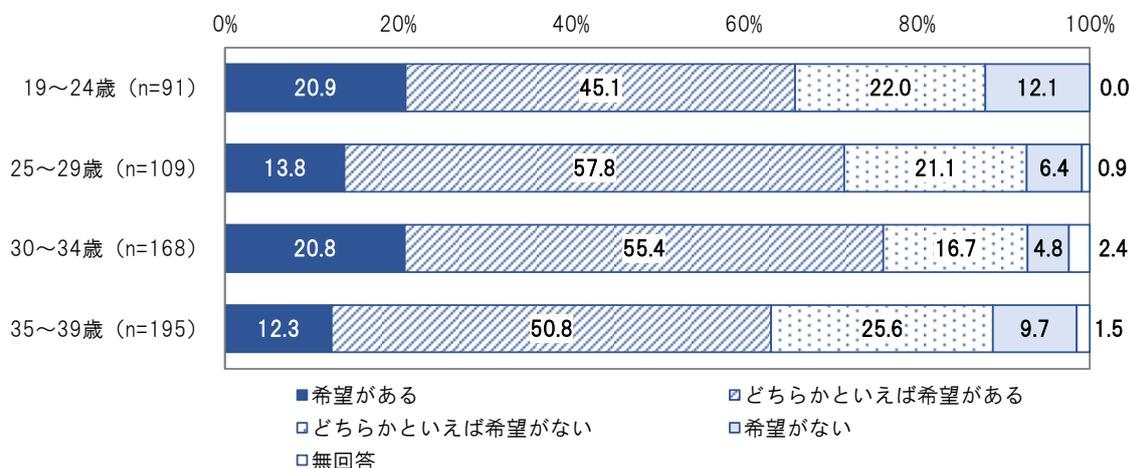
○性別にみると、『希望がある』の割合では[女性]に比べて[男性]で低くなっている。



《年代別比較》

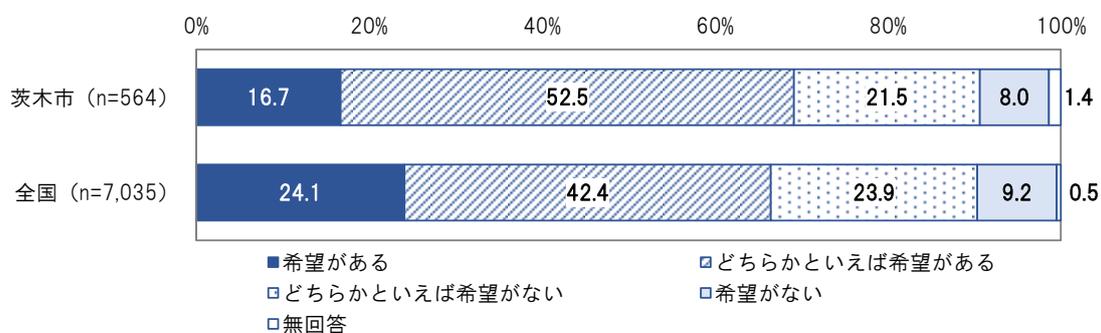
○年代別にみると、『希望がある』の割合が[30～34歳]で76.2%と最も高く、次いで[25～29歳]が71.6%となっている。

○『希望がない』の割合をみると、[19～24歳][35～39歳]で3割を超えて高くなっている。



《国調査（令和4年度）比較》

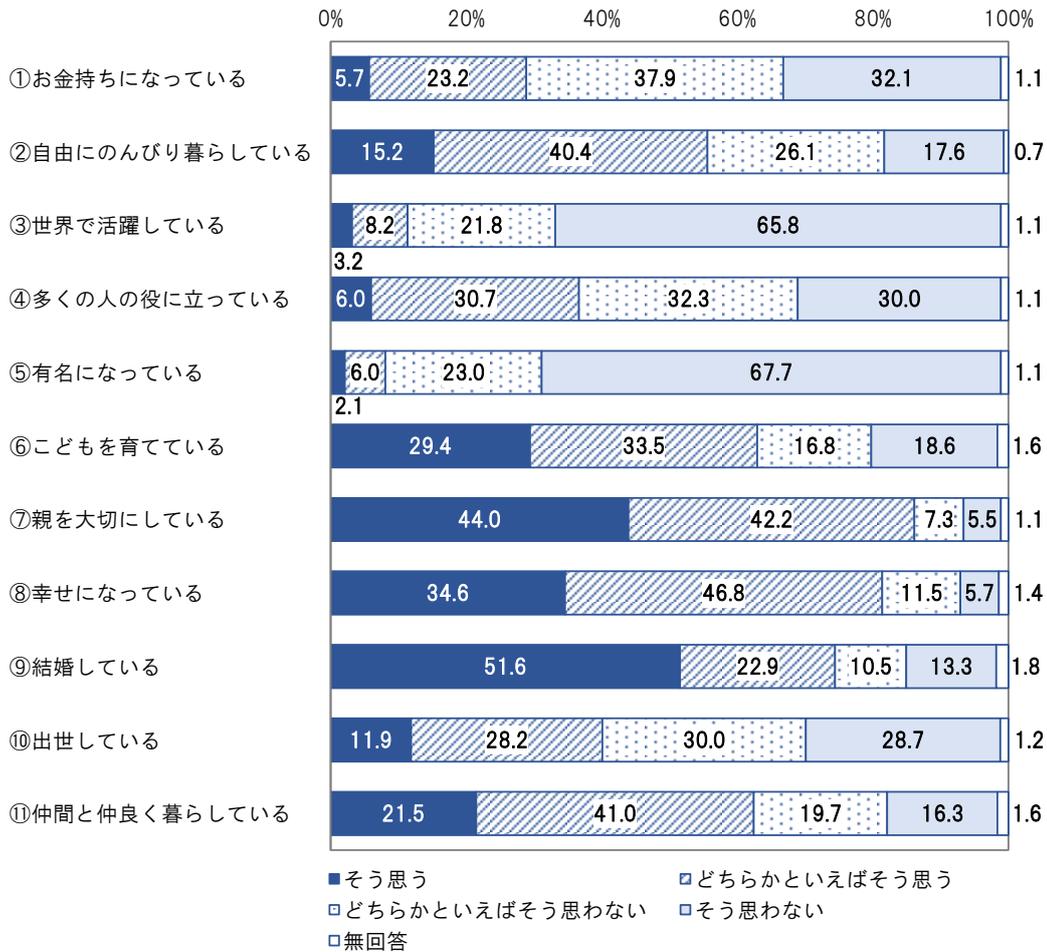
○国の「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」と比較すると、「希望がある」は7.4ポイント低くなっているものの、「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」を合わせた『希望がある』の割合はやや高くなっている。



(14) 20年後の自身の姿【問23 単数回答】

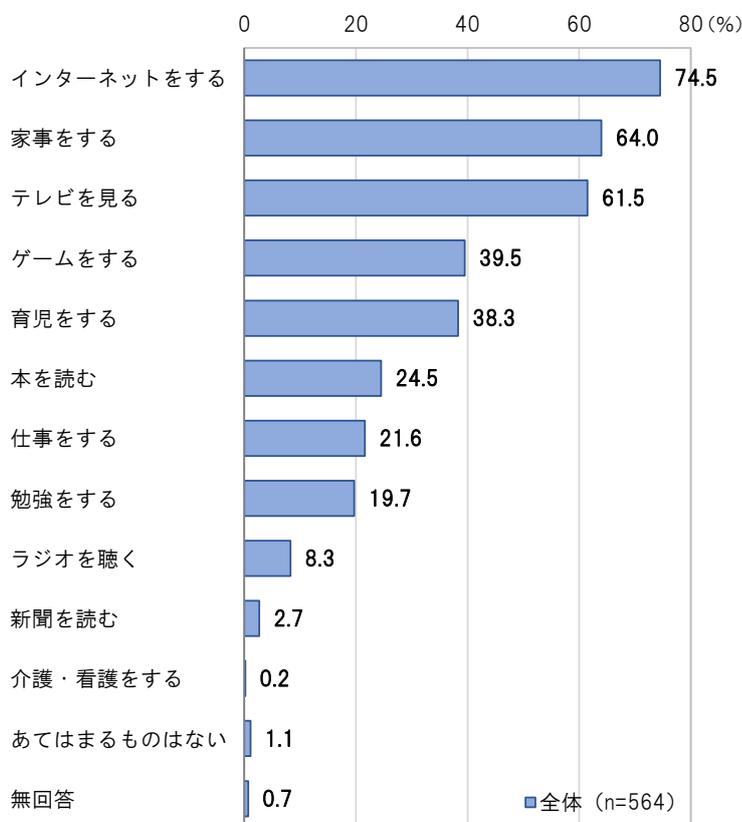
○20年後の自身の姿について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“⑦親を大切にしている”で86.2%と最も高く、次いで“⑧幸せになっている”（81.4%）、“⑨結婚している”（74.5%）となっている。

○「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“⑤有名になっている”で90.7%と最も高く、次いで“③世界で活躍している”（87.6%）、“①お金持ちになっている”（70.0%）となっている。



(15) 自宅でよくしていること【問24 複数回答】

○自宅でよくしていることは、「インターネットをする」が74.5%と最も高く、次いで「家事をする」(64.0%)、「テレビを見る」(61.5%)となっている。



《性別比較》

○性別にみると、[女性]では「家事をする」、[男性]では「インターネットをする」が最も高くなっている。

○また、[女性]では、「家事をする」や「テレビを見る」、「育児をする」などで[男性]に比べて高く、[男性]では「ゲームをする」や「本を読む」、「仕事をする」などで[女性]に比べて高くなっている。

		回答者数 (人)	インターネットをする	家事をする	テレビを見る	ゲームをする	育児をする	本を読む	仕事をする	勉強をする	ラジオを聴く	新聞を読む	介護・看護をする	あてはまるものはない	無回答
性別	女性	351	72.4	75.2	67.8	31.3	44.4	21.9	17.7	17.1	7.1	1.4	0.3	0.9	0.3
	男性	207	79.2	45.9	52.2	54.1	29.0	28.5	29.0	23.2	10.6	4.3	-	1.0	1.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《結婚の有無別・性別比較》

○結婚の有無別に性別の差異みると、結婚している [女性] では「家事をする」、[男性] では「インターネットをする」が最も高くなっている。「家事をする」では 30 ポイント以上、「育児をする」では 10 ポイント以上、男性に比べて女性で高くなっている。一方で、男性では「仕事をする」が女性に比べて約 20 ポイント高くなっている。

(%)

		回答者数 (人)	インターネットをする	家事をする	テレビを見る	ゲームをする	育児をする	本を読む	仕事をする	勉強をする	ラジオを聴く	新聞を読む	介護・看護をする	あてはまるものはない	無回答
結婚している	女性	205	69.8	91.2	68.8	26.3	72.7	19.0	18.5	11.7	5.4	0.5	-	-	-
	男性	107	76.6	59.8	56.1	43.0	55.1	29.0	38.3	14.0	9.3	6.5	-	0.9	0.9
結婚していない	女性	145	75.9	53.1	66.9	37.9	4.8	26.2	16.6	24.8	9.7	2.8	0.7	2.1	0.7
	男性	98	81.6	31.6	48.0	66.3	1.0	28.6	19.4	33.7	11.2	2.0	-	1.0	1.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《年代別比較》

○年代別にみると、[19~24歳] [25~29歳] では「インターネットをする」、[30~34歳] [35~39歳] では「家事をする」が最も高くなっている。

○また、年代が上がるにつれて「家事をする」や「育児をする」、「本を読む」などが高くなる傾向がみられる。

(%)

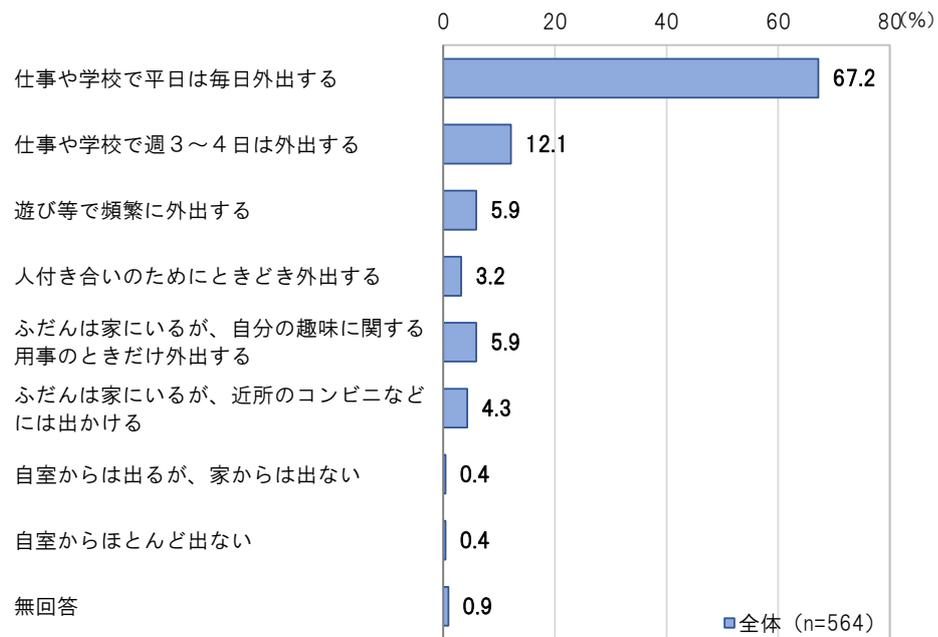
		回答者数 (人)	インターネットをする	家事をする	テレビを見る	ゲームをする	育児をする	本を読む	仕事をする	勉強をする	ラジオを聴く	新聞を読む	介護・看護をする	あてはまるものはない	無回答
年代別	19~24歳	91	76.9	31.9	56.0	54.9	2.2	19.8	5.5	28.6	4.4	-	-	2.2	-
	25~29歳	109	85.3	63.3	61.5	48.6	13.8	22.9	21.1	25.7	15.6	1.8	0.9	0.9	0.9
	30~34歳	168	69.6	70.2	63.1	32.1	45.2	23.8	26.2	13.7	7.7	2.4	-	1.2	0.6
	35~39歳	195	71.8	74.4	63.1	33.8	63.1	28.2	25.6	16.9	6.7	4.6	-	0.5	1.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(16) 外出状況【問25 単数回答】

○外出状況は、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が67.2%と最も高く、次いで「仕事や学校で週3～4日は外出する」(12.1%)、「遊び等で頻繁に外出する」(5.9%)となっており、『外出している』人が9割近くを占めている。

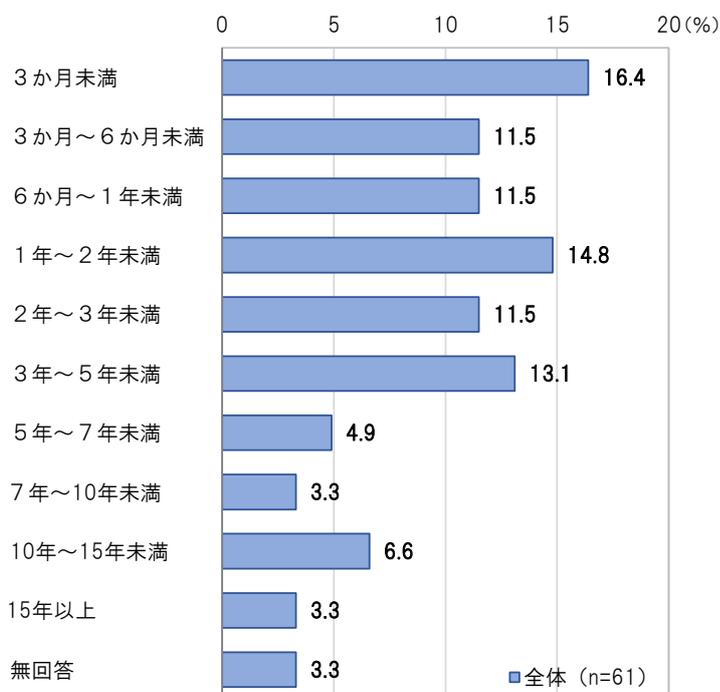
○「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」と「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」を合わせた『外出しない』人は5.1%となっている。



(16-1) 現在の外出状況となってからの期間【問 25-1 単数回答】

※ (16) で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した人のみ

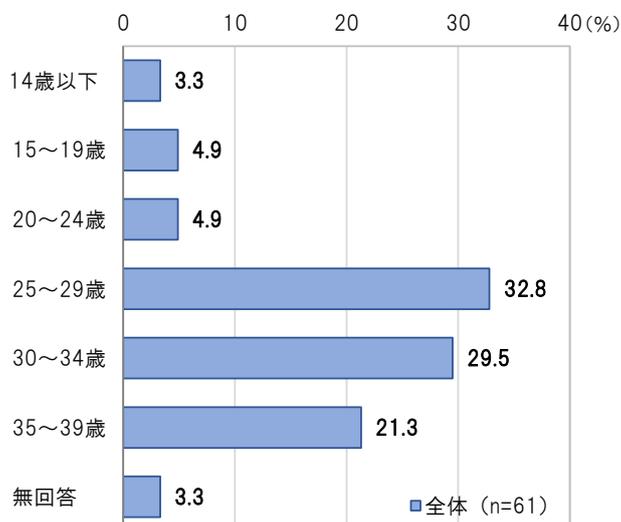
○現在の外出状況となってからの期間は、「3か月未満」が16.4%と最も高くなっているものの、次いで「1年～2年未満」(14.8%)、「3年～5年未満」(13.1%)となっており、『6か月以上』が約7割を占めている。



(16-2) 現在の外出状況となった年齢【問 25-2 単数回答】

※ (16) で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した人のみ

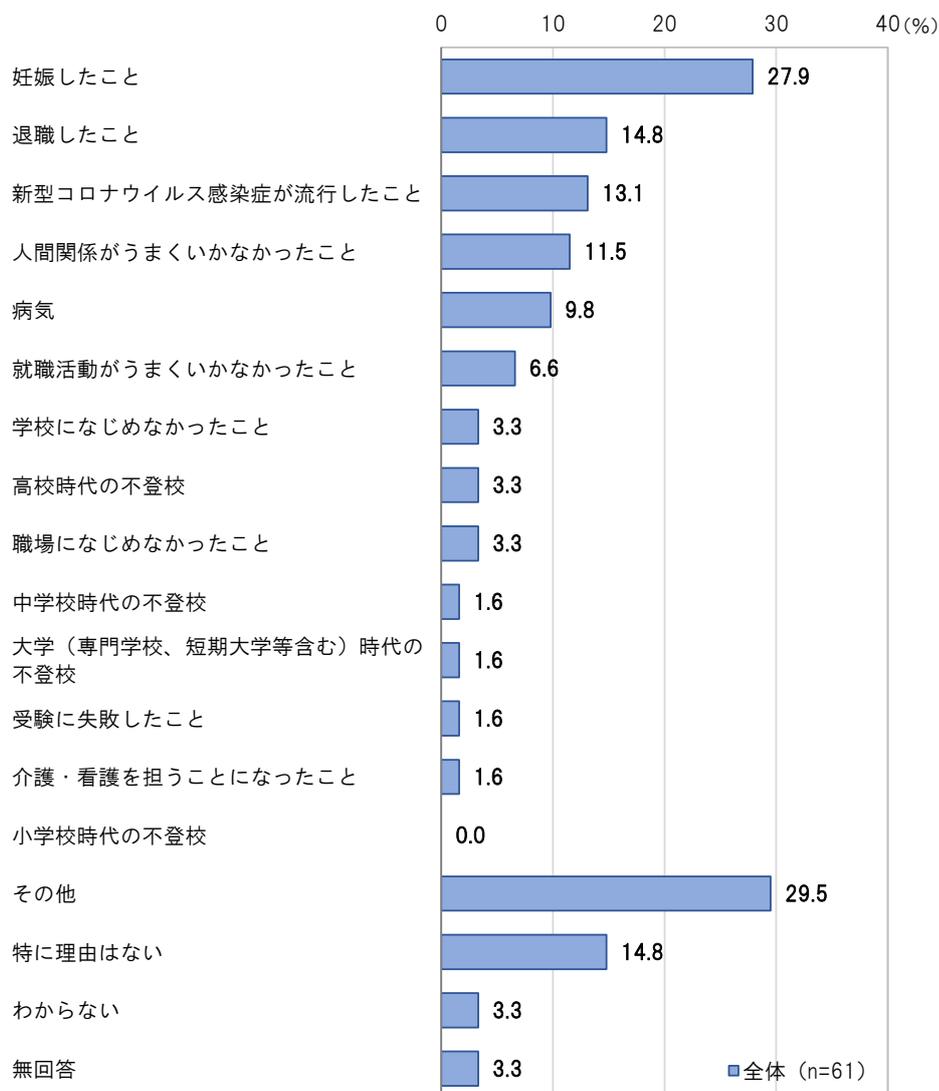
○現在の外出状況となった年齢は、「25～29歳」が32.8%と最も高く、次いで「30～34歳」(29.5%)、「35～39歳」(21.3%)となっており、『25歳以上』から現在の外出状況となっている人が8割以上を占めている。



(16-3) 現在の外出状況となった主な理由【問 25-3 複数回答】

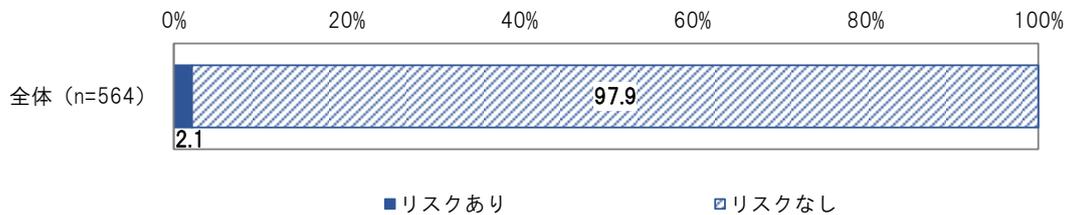
※ (16) で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれかを回答した人のみ

○現在の外出状況となった主な理由は、「妊娠したこと」が 27.9%と最も高く、次いで「退職したこと」(14.8%)、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」(13.1%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(11.5%)となっている。



【ひきこもり傾向集計】

○ひきこもり傾向をみると、「(ひきこもりの) リスクあり」は2.1%となっている。



【参考】ひきこもり傾向分類の考え方

内閣府が実施した「若者の生活に関する調査報告書（平成28年9月）」を参考に、以下のように整理。本調査では、「広義のひきこもり群」「親和群」をまとめて『ひきこもり傾向群』とし、傾向を分析。

●ひきこもりの《リスクあり》

(16) 外出状況（問25）で以下の項目を選択した人

- ・ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- ・ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- ・自室からは出るが、家からは出ない
- ・自室からほとんど出ない

かつ

(16-1) 現在の外出状況になってからの期間（問25-1）で「6か月以上」を選択した人

であって、以下の項目に該当する人を除く

(16-3) 現在の外出状況になった主な理由（問25-3）で以下の項目を選択した人

- ・病気
- ・妊娠したこと
- ・その他 ※カッコ内に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した人

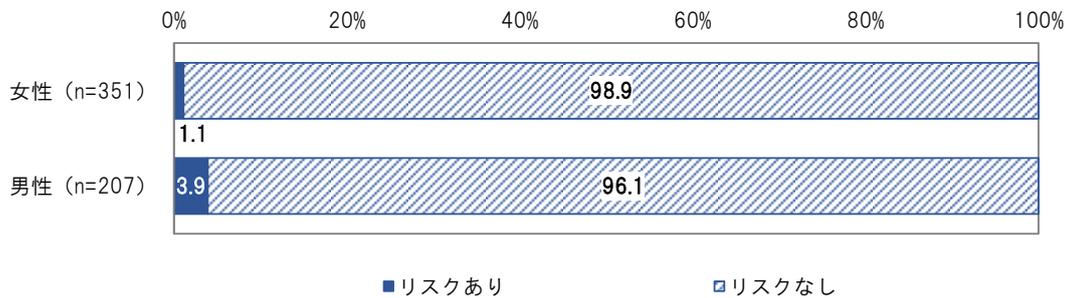
又は

(15) 自宅でよくしていること（問24）で以下の項目を選択した人

- ・家事をする
- ・育児をする

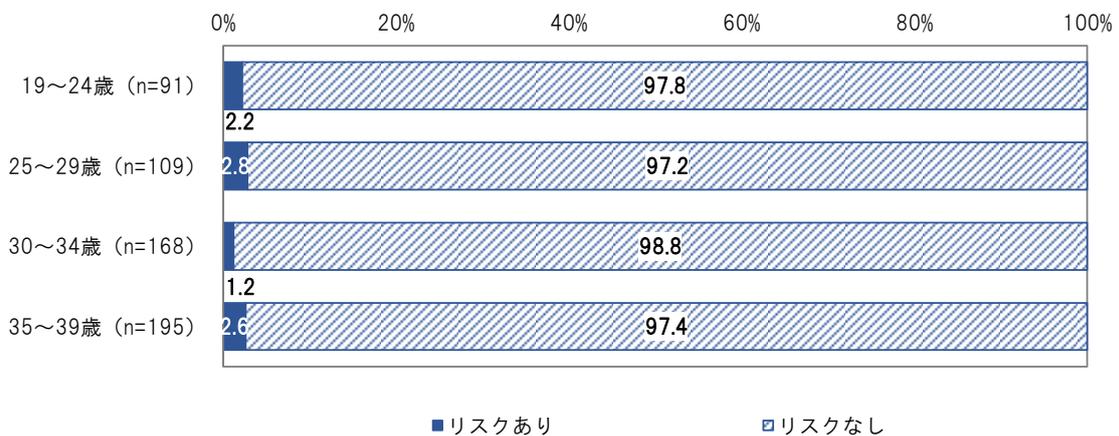
《性別比較》

○性別にみると、「リスクあり」の割合では[女性]に比べて[男性]でやや高くなっている。



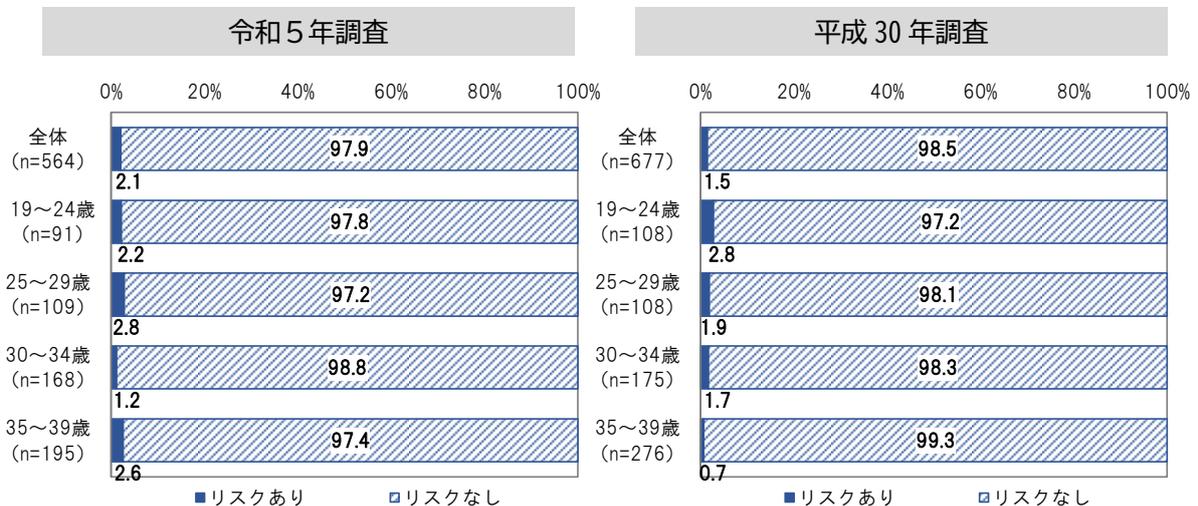
《年代別比較》

○年代別にみると、「リスクあり」の割合が[30～34歳]で1.2%と他の年代に比べて最も低くなっている。



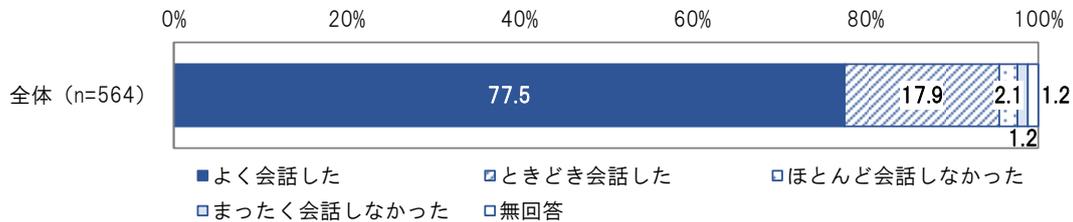
《経年比較》

○平成30年調査と比較すると、全体で「リスクあり」がやや増加している。また、年代別にみると、[35～39歳]で増加している。



(17) 家族以外との会話の有無【問26 単数回答】

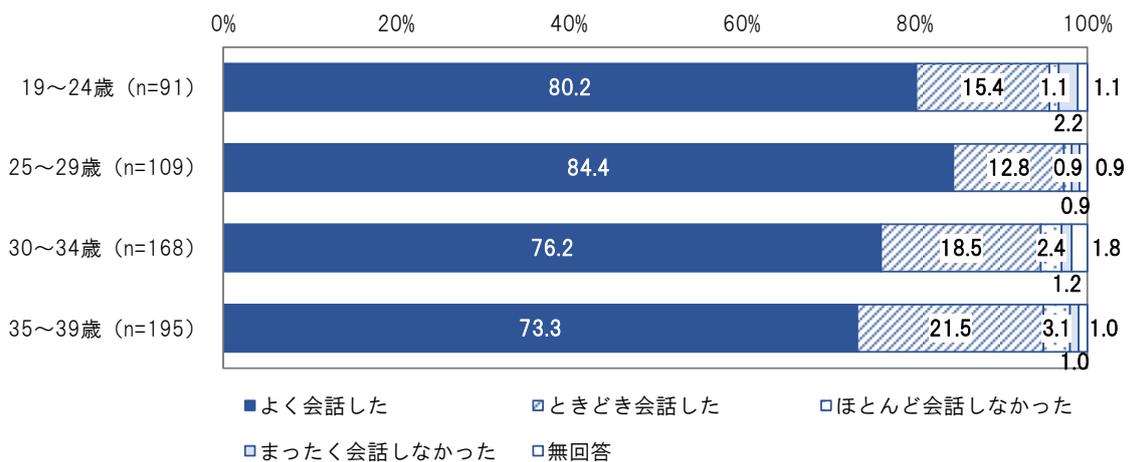
○家族以外との会話の有無は、「よく会話した」が77.5%と最も高く、次いで「ときどき会話した」(17.9%)となっており、『会話した』人が9割以上を占めている。



《年代別比較》

○年代別にみると、「よく会話した」の割合が[25～29歳]で84.4%と最も高く、次いで[19～24歳]で80.2%となっている。

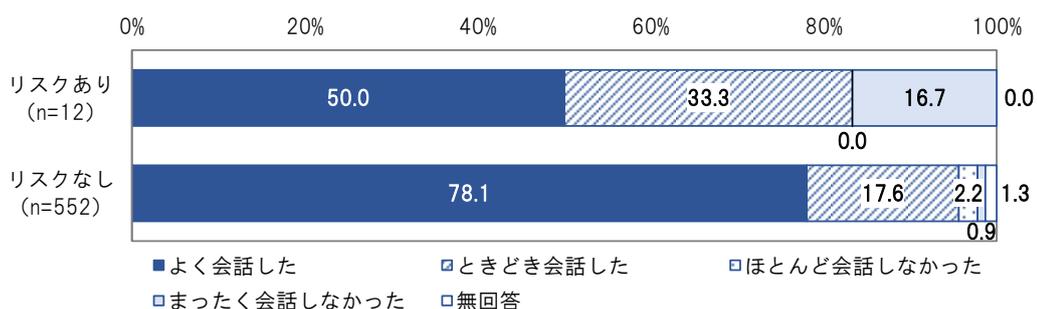
○「ほとんど会話しなかった」と「まったく会話しなかった」を合わせた『会話しなかった』の割合では、[35～39歳]で4.1%と最も高くなっている。



《ひきこもり傾向別比較》

○ひきこもり傾向別にみると、「よく会話した」の割合が[(ひきこもりの) リスクあり]で50.0%と、[(ひきこもりの) リスクなし] (78.1%)を大きく下回っている。

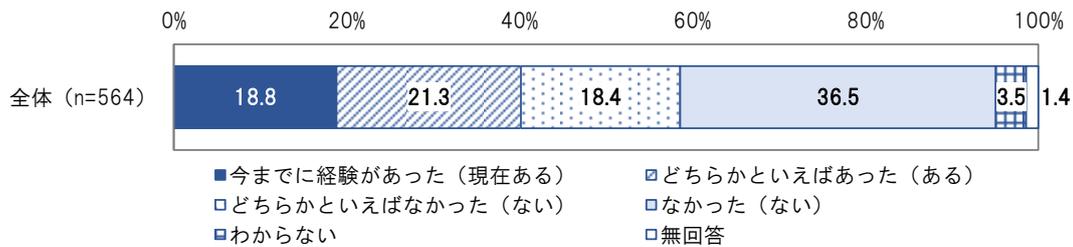
○また、『会話しなかった』の割合では、[(ひきこもりの) リスクあり]で16.7%と高くなっている。



3. 困難な経験について

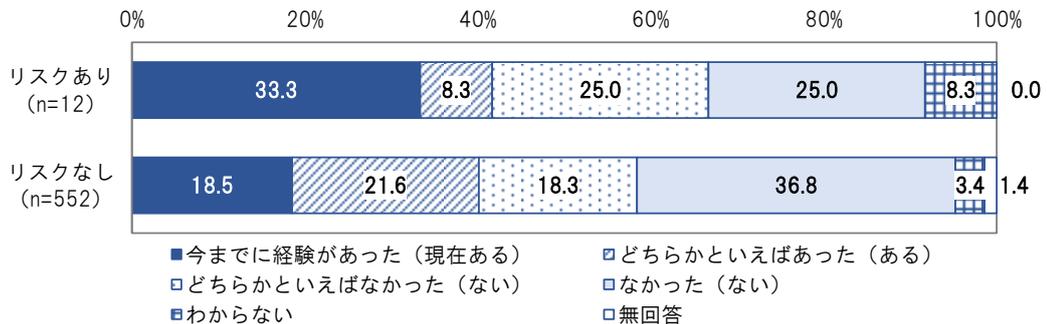
(1) 社会・日常生活を円滑に送れなかったことの有無【問27 単数回答】

- 社会・日常生活を円滑に送れなかったことの有無は、「なかった（ない）」が36.5%と最も高く、「どちらかといえばなかった（ない）」(18.4%)と合わせた『なかった（ない）』が半数以上を占めている。
- 「今までに経験があった（現在ある）」(18.8%)と「どちらかといえばあった（ある）」(21.3%)を合わせた『あった（ある）』人は約4割となっている。



《ひきこもり傾向別比較》

- ひきこもり傾向別にみると、「今までに経験があった（現在ある）」の割合が[(ひきこもりの) リスクあり]で33.3%と、[(ひきこもりの) リスクなし] (18.5%)を大きく上回っている。

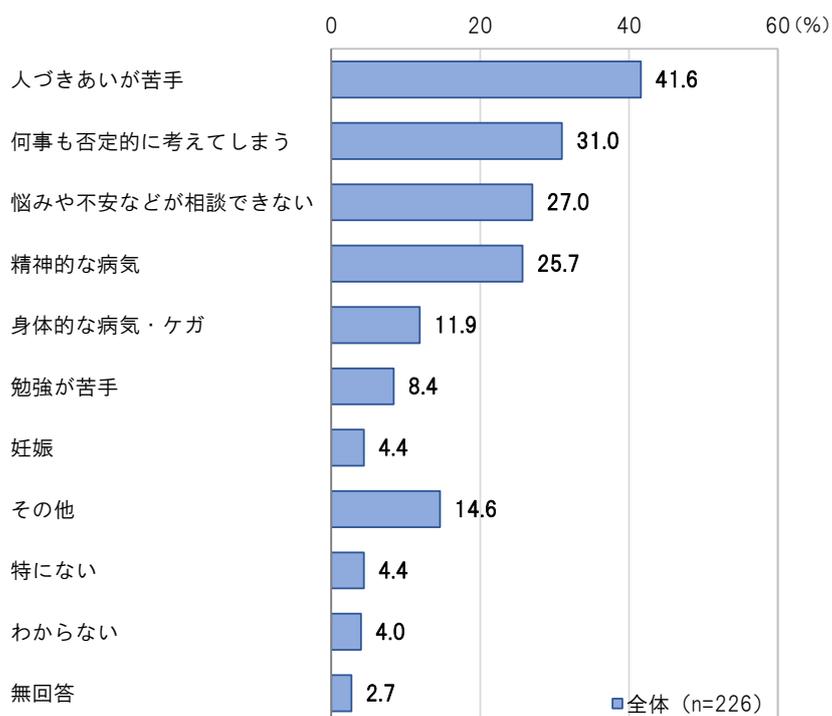


(1-1) 困難を経験した(経験している)主な原因【問28 複数回答】

※(1)で「今までに経験があった(現在ある)」「どちらかといえばあった(ある)」と回答した人のみ

① 自分自身について

○困難を経験した(経験している)主な原因として、自分自身については、「人づきあいが苦手」が41.6%と最も高く、次いで「何事も否定的に考えてしまう」(31.0%)、「悩みや不安などが相談できない」(27.0%)、「精神的な病気」(25.7%)となっている。



《年代別比較》

○年代別にみると、すべての年代で「人づきあいが苦手」が最も高くなっている。

○また、年代が下がるにつれて「何事も否定的に考えてしまう」が高くなる傾向がみられる。

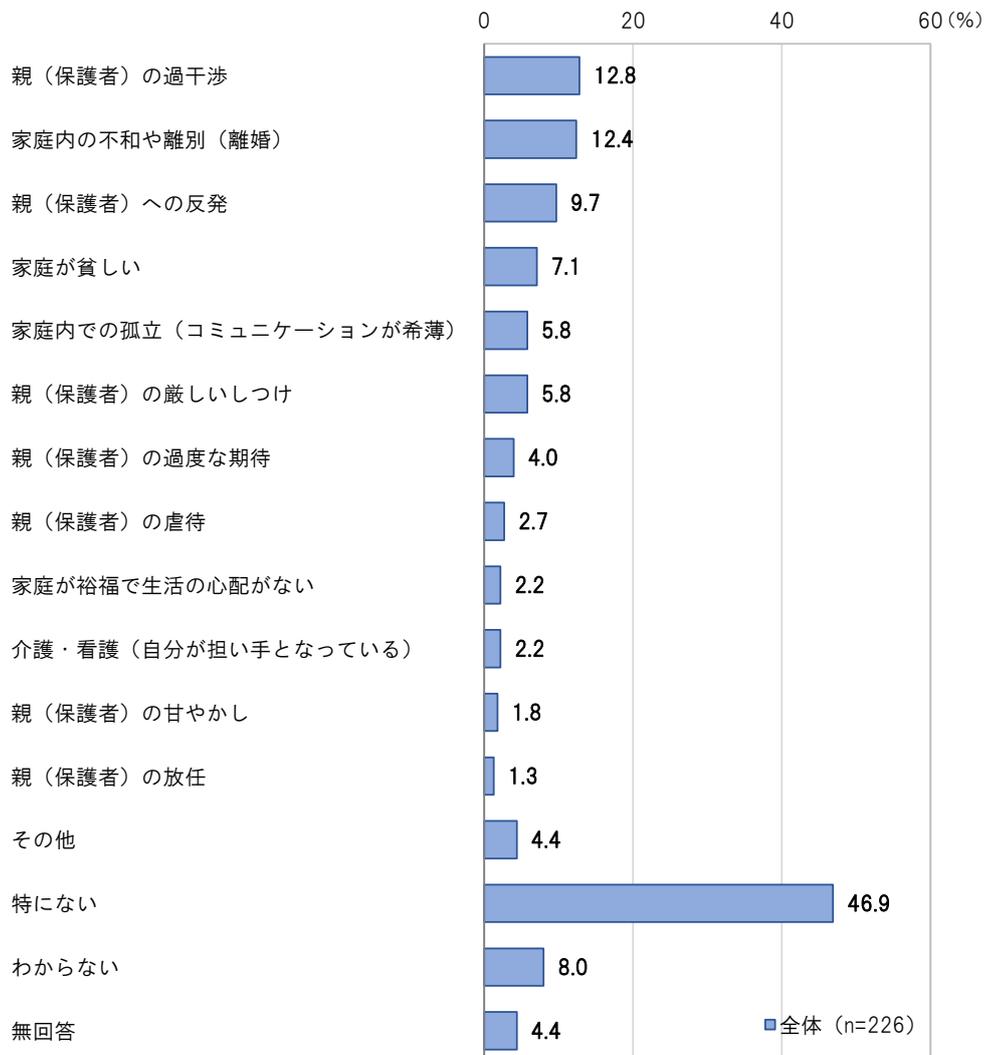
		回答者数(人)	人づきあいが苦手	何事も否定的に考えてしまう	悩みや不安などが相談できない	精神的な病気	身体的な病気・ケガ	勉強が苦手	妊娠	その他	特にない	わからない	無回答
年代別	19～24歳	31	41.9	38.7	22.6	19.4	9.7	12.9	-	16.1	-	3.2	3.2
	25～29歳	43	41.9	37.2	32.6	27.9	11.6	4.7	-	14.0	2.3	4.7	4.7
	30～34歳	63	46.0	31.7	27.0	28.6	12.7	11.1	7.9	12.7	3.2	-	1.6
	35～39歳	89	38.2	24.7	25.8	24.7	12.4	6.7	5.6	15.7	7.9	6.7	2.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

② 家族・家庭について

○困難を経験した（経験している）主な原因として、家族・家庭については、「特にない」が46.9%と最も高くなっている。

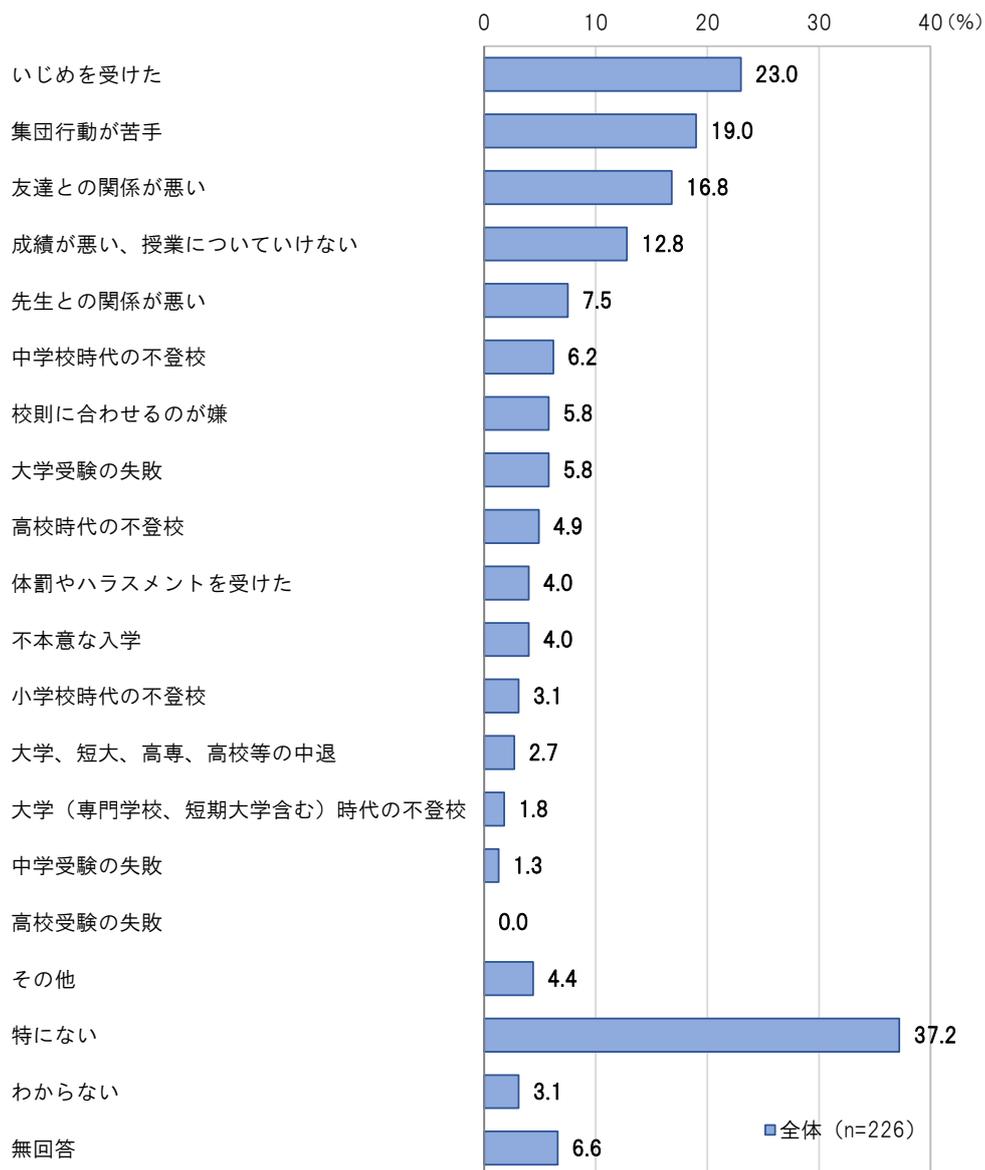
○具体的な内容では、「親（保護者）の過干渉」が12.8%と高く、次いで「家庭内の不和や離別（離婚）」（12.4%）、「親（保護者）への反発」（9.7%）となっている。



③ 学校について

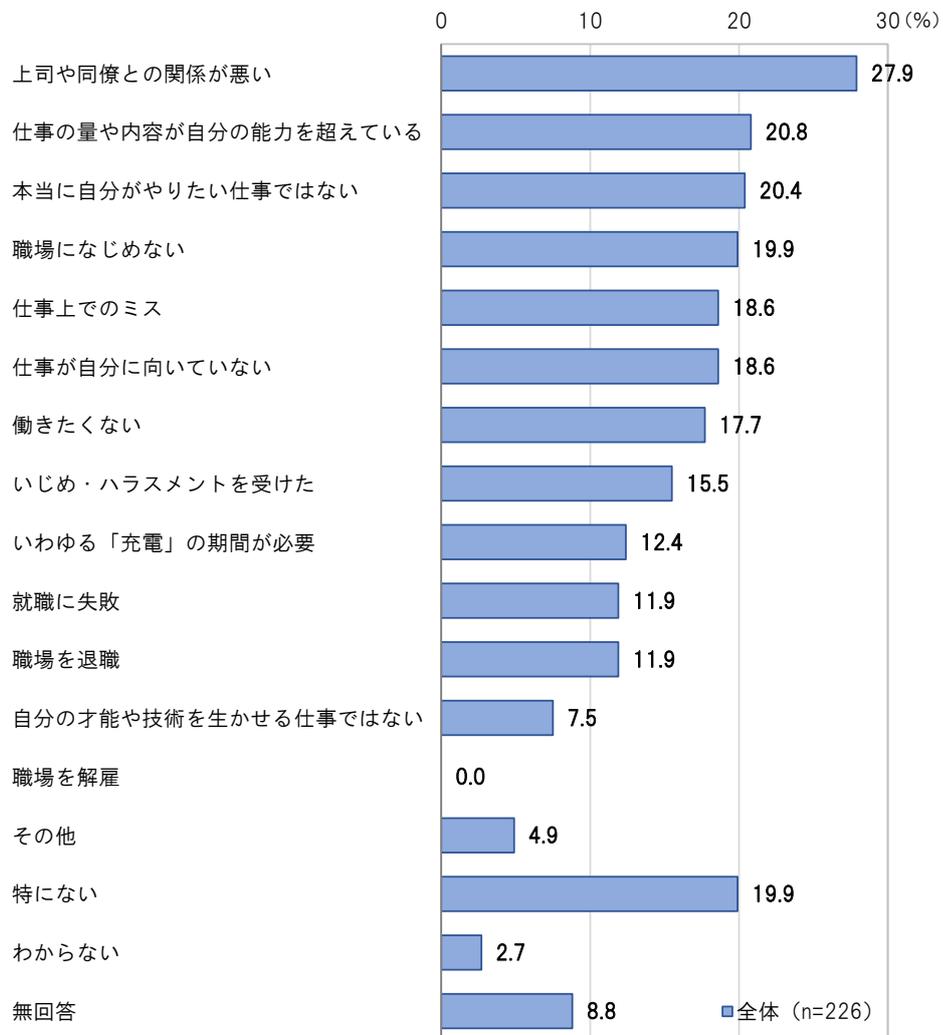
○困難を経験した（経験している）主な原因として、学校については、「特にない」が 37.2%と最も高くなっている。

○具体的な内容では、「いじめを受けた」が 23.0%と高く、次いで「集団行動が苦手」（19.0%）、「友達との関係が悪い」（16.8%）、「成績が悪い、授業についていけない」（12.8%）となっている。



④ 仕事・職場について

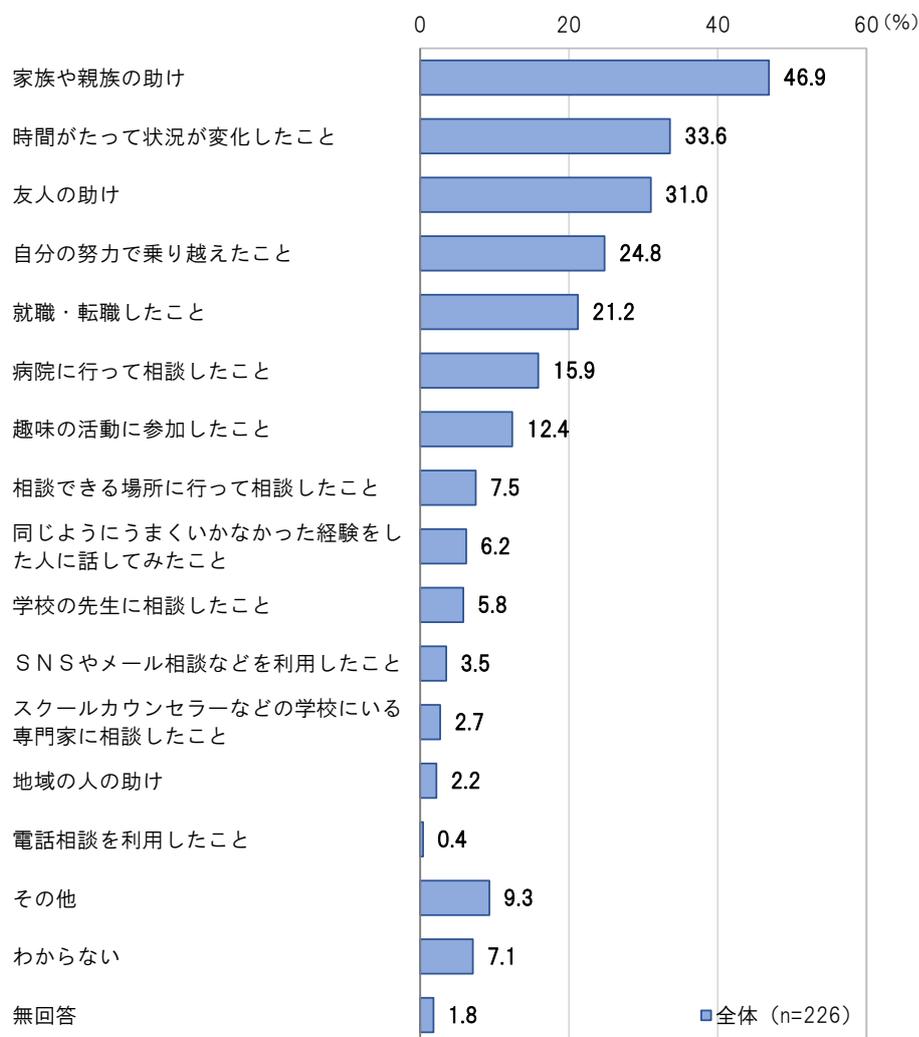
○困難を経験した（経験している）主な原因として、仕事・職場については、「上司や同僚との関係が悪い」が27.9%と最も高く、次いで「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」（20.8%）、「本当に自分がやりたい仕事ではない」（20.4%）、「職場になじめない」（19.9%）となっている。



(1-2) 社会・日常生活を円滑に送れなかった状態が改善したきっかけ【問 28-1 複数回答】

※ (1) で「今までに経験があった（現在ある）」「どちらかといえばあった（ある）」と回答した人のみ

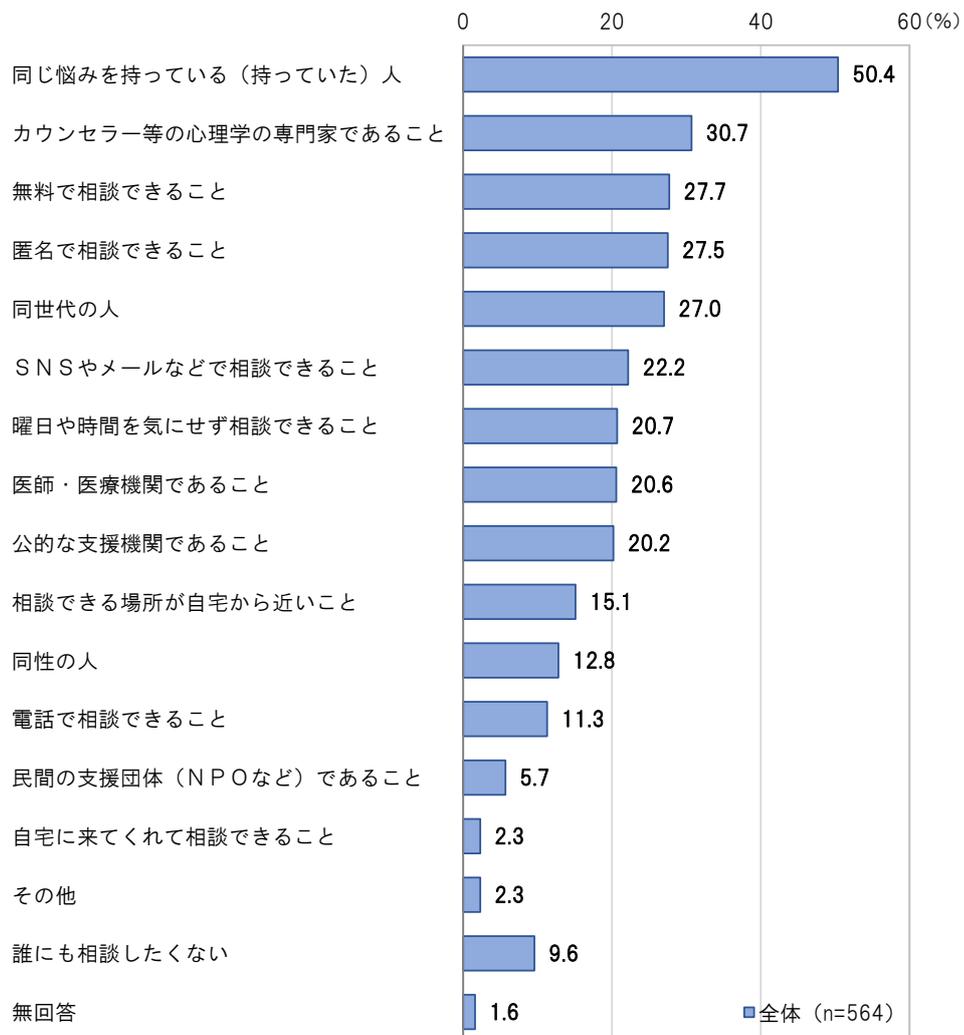
○社会・日常生活を円滑に送れなかった状態が改善したきっかけは、「家族や親族の助け」が46.9%と最も高く、次いで「時間がたって状況が変化したこと」(33.6%)、「友人の助け」(31.0%)、「自分の努力で乗り越えたこと」(24.8%)となっている。



(2) 社会・日常生活を円滑に送ることができない状態となった時に相談したい人・場所

【問 29 複数回答】

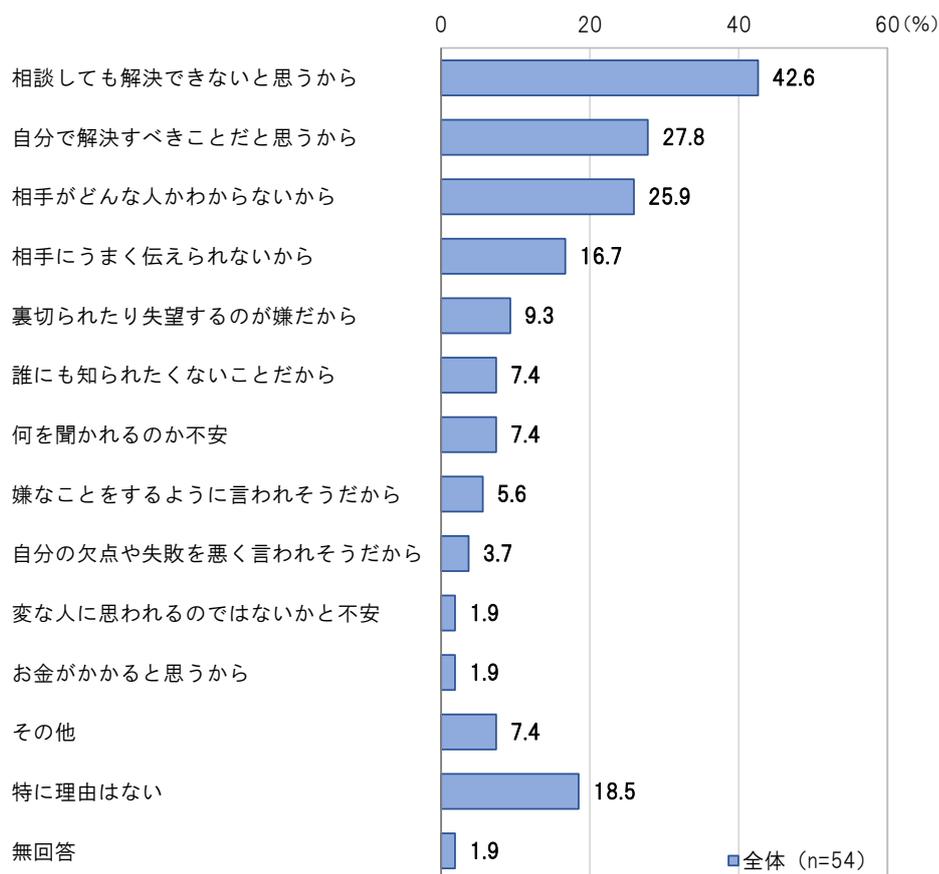
○社会・日常生活を円滑に送ることができない状態となった時に相談したい人・場所は、「同じ悩みを持っている（持っていた）人」が50.4%と最も高く、次いで「カウンセラー等の心理学の専門家であること」(30.7%)、「無料で相談できること」(27.7%)、「匿名で相談できること」(27.5%)、「同世代の人」(27.0%)となっている。



(2-1) 社会・日常生活を円滑に送ることができない状態となった時に誰にも相談したくない理由【問 29-1 複数回答】

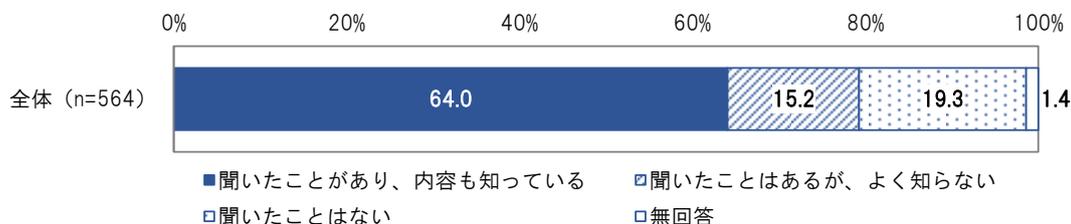
※(2)で「誰にも相談したくない」と回答した人のみ

○社会・日常生活を円滑に送ることができない状態となった時に誰にも相談したくない理由は、「相談しても解決できないと思うから」が42.6%と最も高く、次いで「自分で解決すべきことだと思うから」(27.8%)、「相手がどんな人かわからないから」(25.9%)となっている。



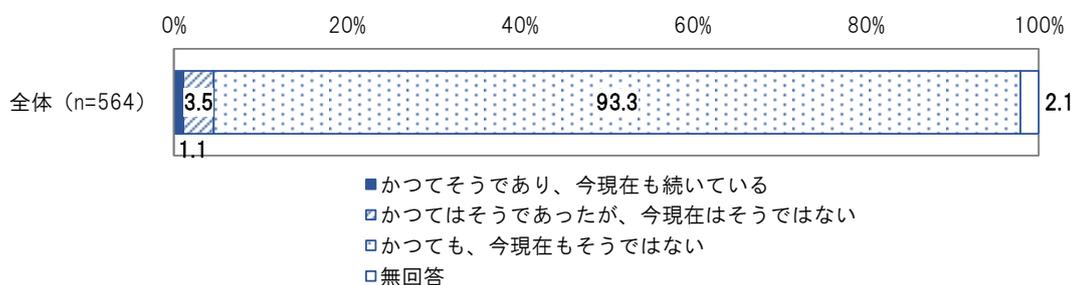
(3) ヤングケアラーの言葉の認知度【問30 単数回答】

- ヤングケアラーの言葉の認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が64.0%と最も高く、「聞いたことはあるが、よく知らない」(15.2%)と合わせた『聞いたことがある』が約8割を占めている。
- 一方で、「聞いたことはない」が19.3%となっている。



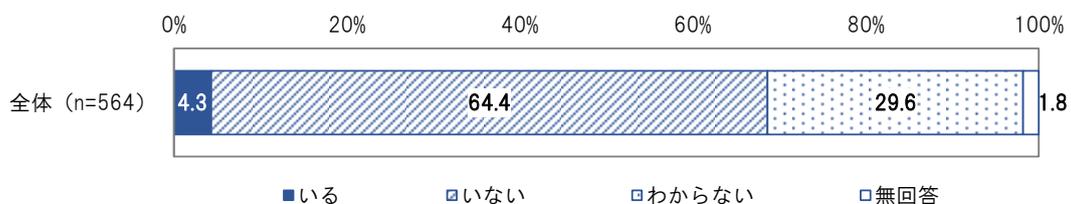
(4) 自身をヤングケアラーだったと思うか【問31 単数回答】

- 自身をヤングケアラーだったと思うかは、「かつても、今現在もそうではない」が93.3%と大半を占めている。
- 「かつてそうであり、今現在も続けている」は1.1%、「かつてはそうであったが、今現在はそうではない」は3.5%となっている。



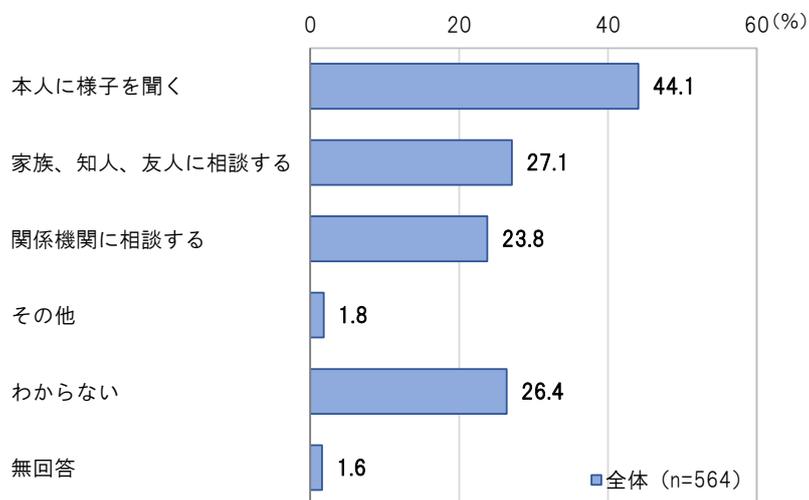
(5) 自分の周りでヤングケアラーと思われるこどもがいるか【問32 単数回答】

- 自分の周りでヤングケアラーと思われるこどもがいるかは、「いない」が64.4%と6割以上を占め、「いる」は4.3%となっている。



(6) 自分の周りでヤングケアラーと思われるこどもがいた場合の対応【問 33 複数回答】

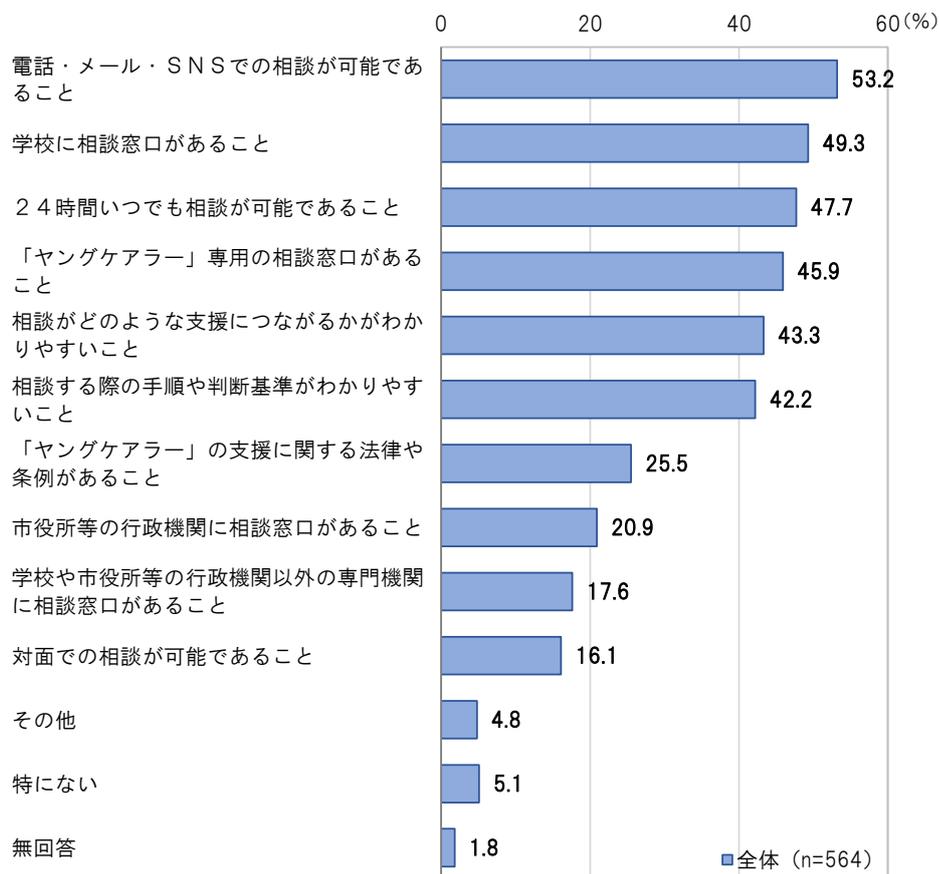
○自分の周りでヤングケアラーと思われるこどもがいた場合の対応は、「本人に様子を聞く」が44.1%と最も高く、次いで「家族、知人、友人に相談する」(27.1%)、「関係機関に相談する」(23.8%)となっている。



(7) 周りでヤングケアラーと思われる子どもがいた場合に相談しやすくなるための仕組み

【問 34 複数回答】

○周りでヤングケアラーと思われる子どもがいた場合に相談しやすくなるための仕組みは、「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が53.2%と最も高く、次いで「学校に相談窓口があること」(49.3%)、「24時間いつでも相談が可能であること」(47.7%)となっている。

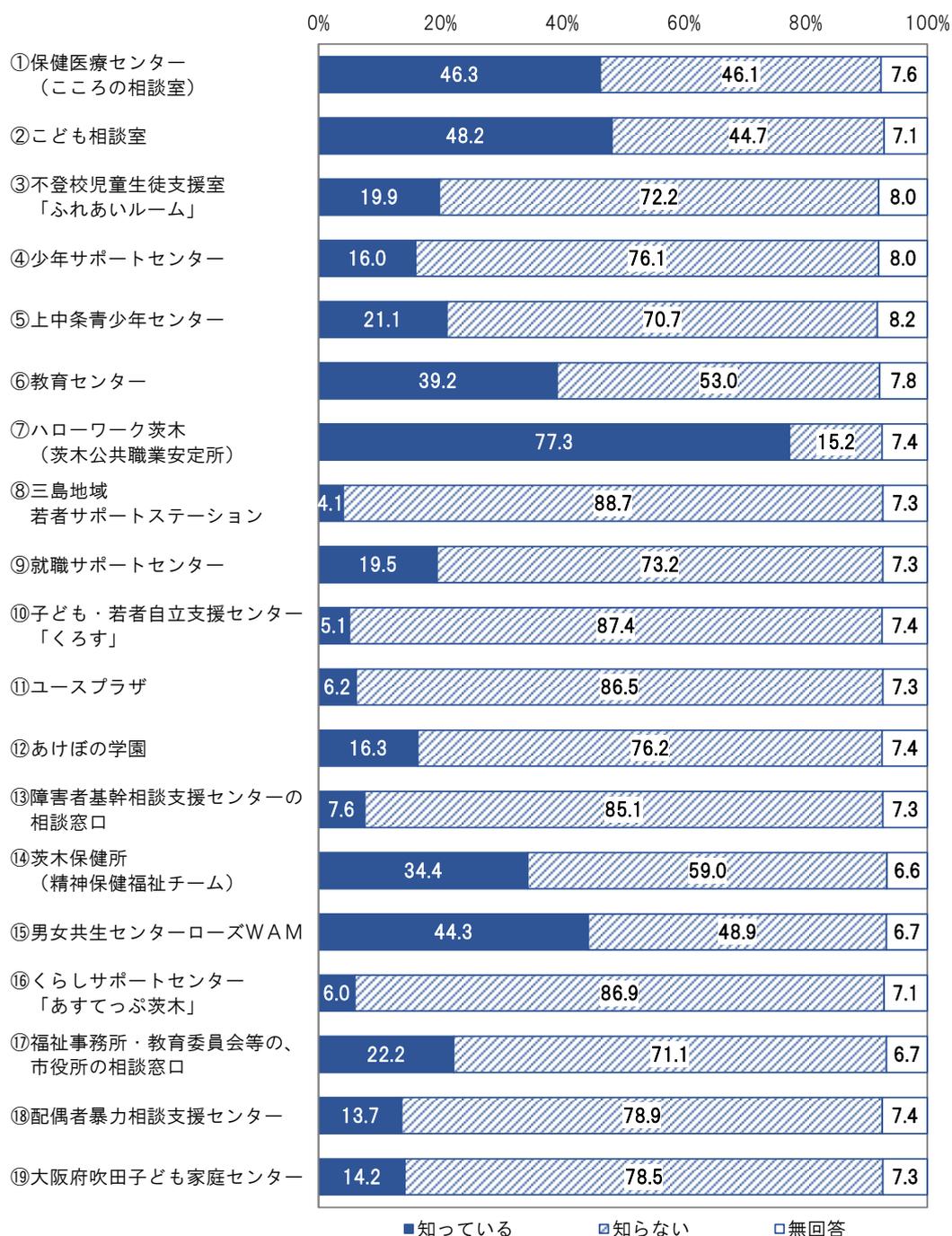


4. 相談窓口・相談機関等について

(1) 相談窓口・相談機関等の認知度【問35(1) 単数回答】

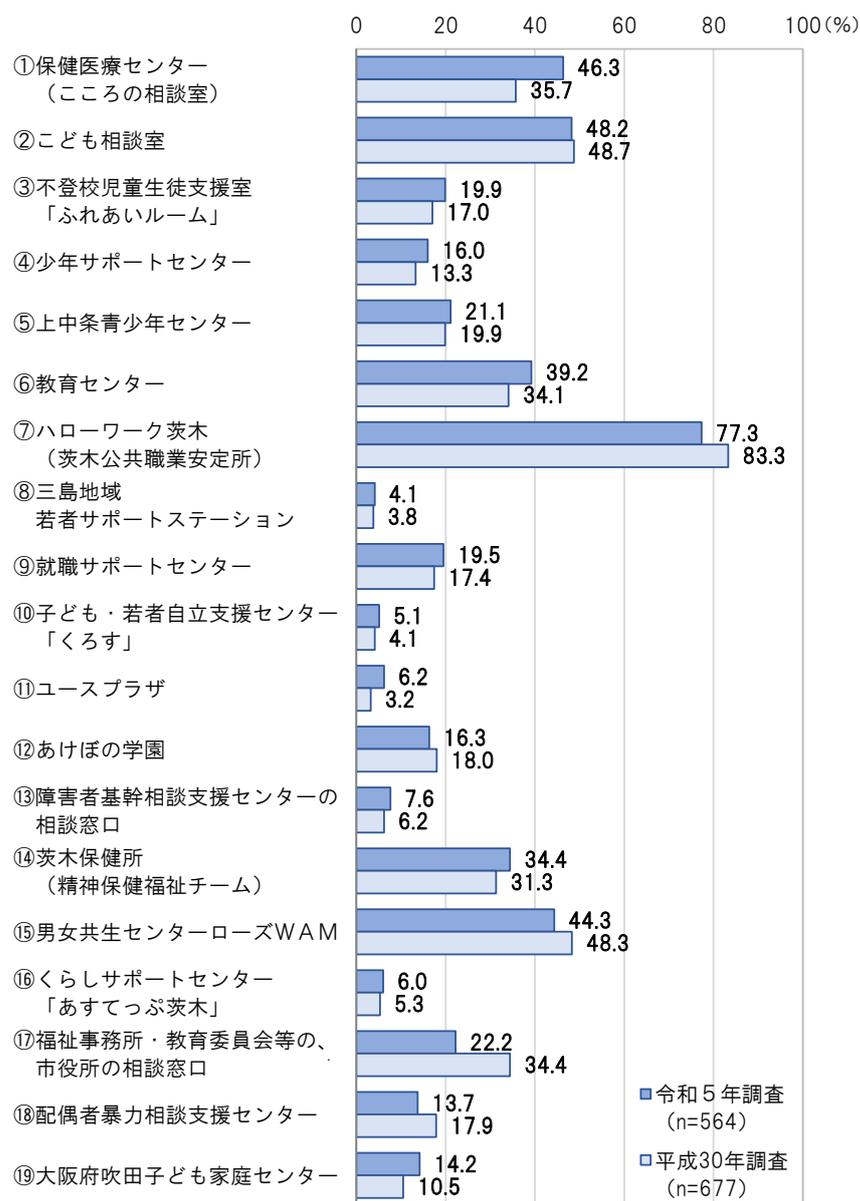
○相談窓口・相談機関等の認知度は、「知っている」の割合をみると、“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”で77.3%と最も高く、次いで“②こども相談室”（48.2%）、“①保健医療センター（こころの相談室）”（46.3%）となっている。

○“⑧三島地域若者サポートステーション”、“⑩子ども・若者自立支援センター「くろす」”、“⑪ユースプラザ”、“⑬障害者基幹相談支援センターの相談窓口”、“⑯くらしサポートセンター「あすてっぷ茨木」”では、「知っている」が1割未満と低くなっている。



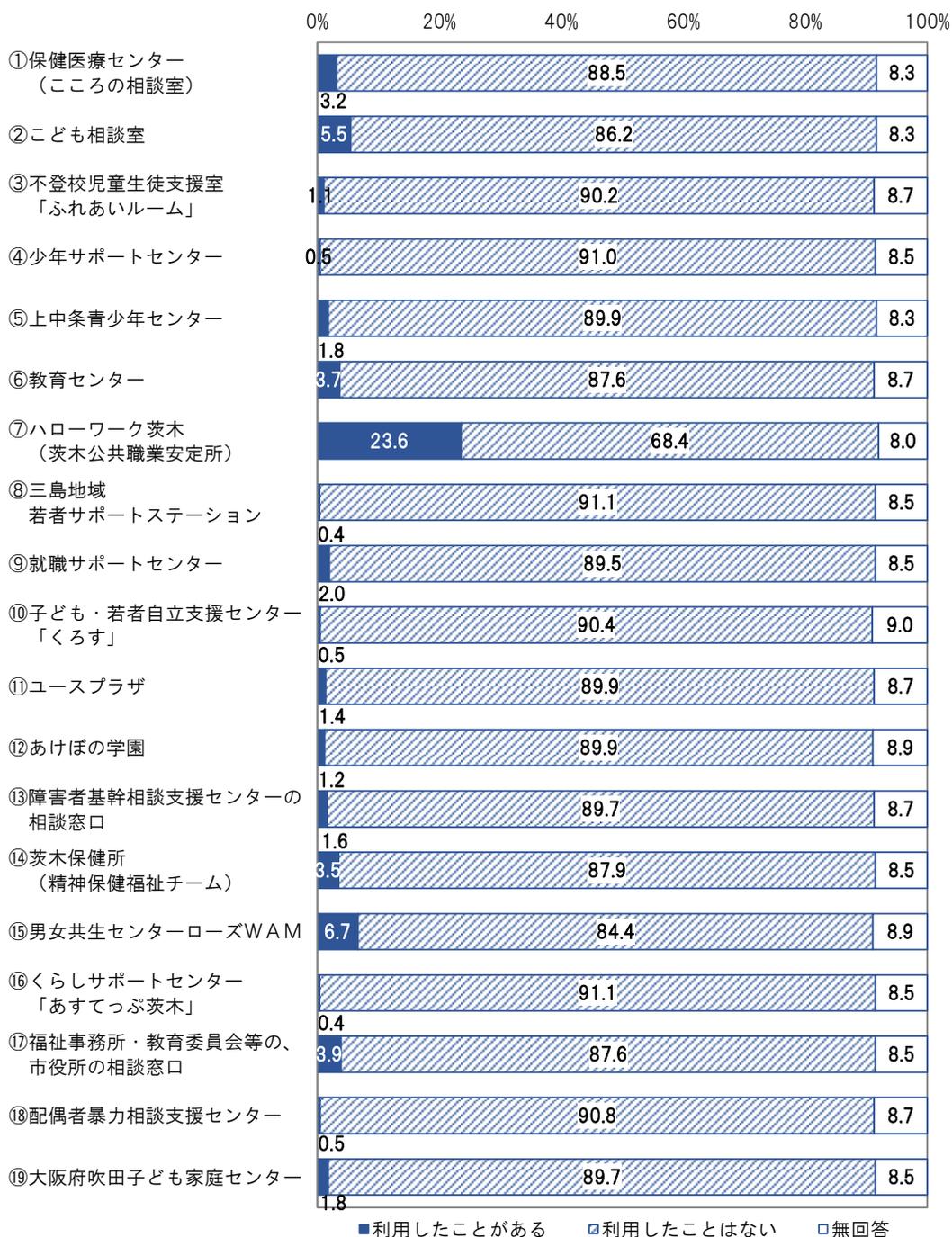
《経年比較：「知っている」の割合》

- 平成30年調査と比較すると、ほとんどの相談窓口・相談機関等で認知度が高くなっており、特に“①保健医療センター（こころの相談室）”では約10ポイント高くなっている。
- 一方で、“②こども相談室”、“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”、“⑫あけぼの学園”、“⑮男女共生センターローズWAM”、“⑰福祉事務所・教育委員会等の市役所の相談窓口”、“⑱配偶者暴力相談支援センター”では認知度が低くなっており、特に“⑰福祉事務所・教育委員会等の市役所の相談窓口”では、10ポイント以上低くなっている。



(2) 相談窓口・相談機関等の利用状況【問 35 (2) 単数回答】

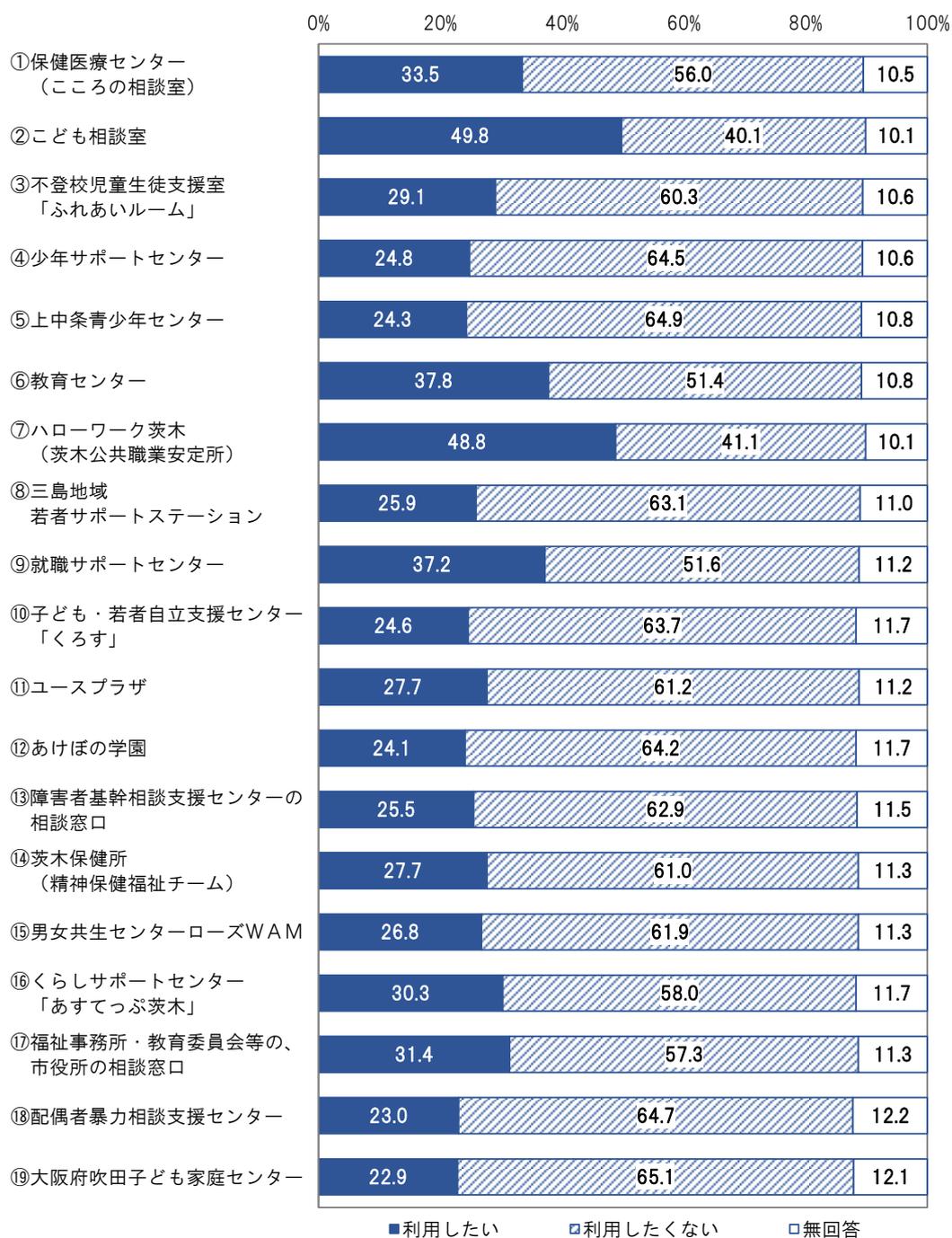
○相談窓口・相談機関等の利用状況は、「利用したことがある」の割合をみると、“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”で23.6%と最も高くなっているものの、その他の機関では1割未満の利用率となっている。



(3) 相談窓口・相談機関等の今後の利用意向【問 35 (3) 単数回答】

○相談窓口・相談機関等の今後の利用意向は、「利用したい」の割合をみると、“②子ども相談室”で49.8%と最も高く、次いで“⑦ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）”（48.8%）、“⑥教育センター”（37.8%）、“⑨就職サポートセンター”（37.2%）となっている。

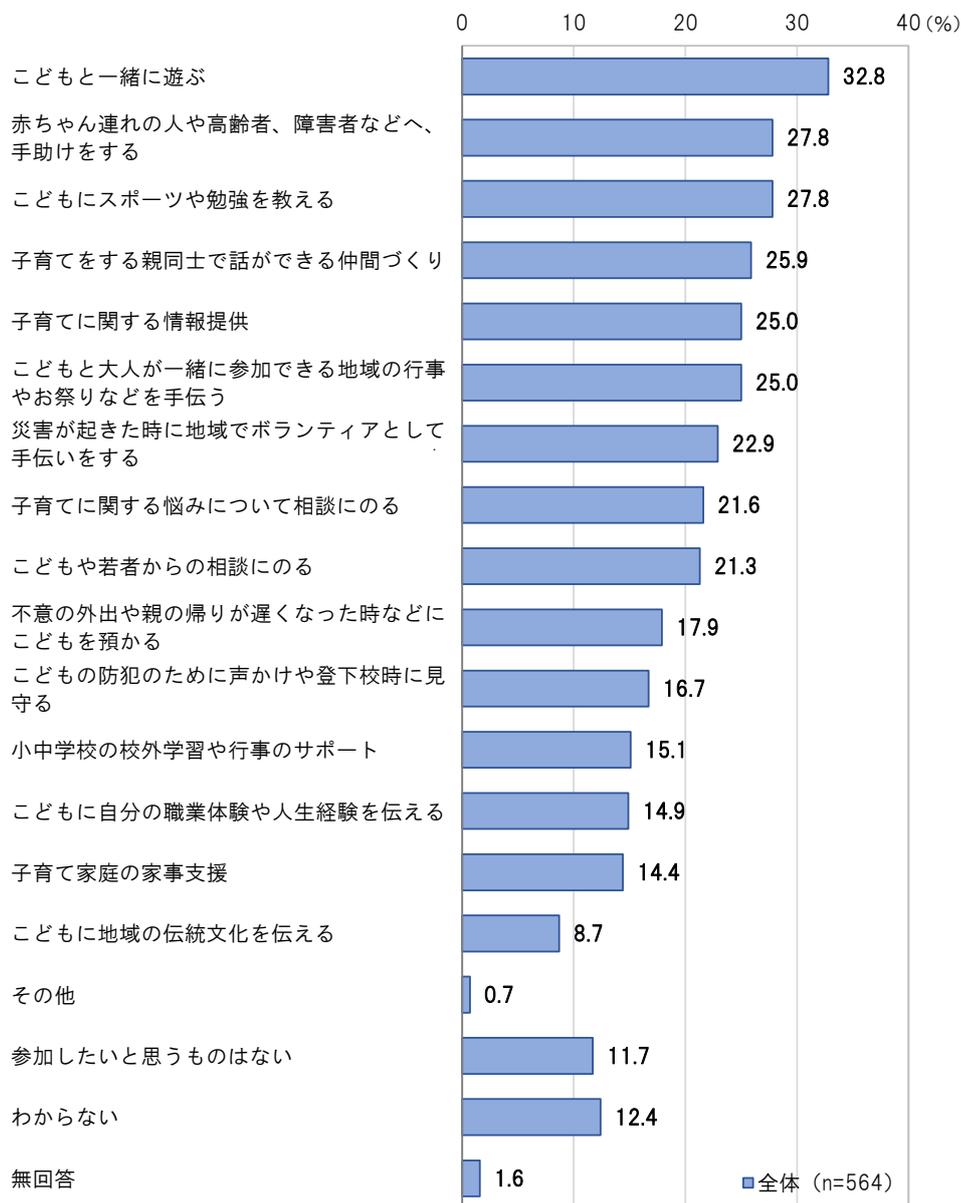
○その他の機関においても利用意向は2割以上となっており、（1）認知度や（2）利用状況と比べると、すべての事業で利用意向が高い結果となっている。



5. 地域の活動や子育てを支援する活動について

(1) 子育てに関する活動の支え手として参加したいと思うもの【問36 複数回答】

○子育てに関する活動の支え手として参加したいと思うものは、「こどもと一緒に遊ぶ」が32.8%と最も高く、次いで「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、手助けをする」および「こどもにスポーツや勉強を教える」(27.8%)、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」(25.9%)となっている。



《性別・年代別比較》

○性別にみると、[女性]では「子どもと一緒に遊ぶ」、[男性]では「子どもにスポーツや勉強を教える」が最も高くなっている。また、[女性]では「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、手助けをする」や「子育てに関する情報提供」、「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる」で、[男性]に比べて10ポイント以上高い割合となっている。

○年代別にみると、年代が下がるにつれて「子どもと一緒に遊ぶ」や「子どもにスポーツや勉強を教える」、年代が上がるにつれて「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、手助けをする」が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数(人)	子どもと一緒に遊ぶ	赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、手助けをする	子どもにスポーツや勉強を教える	子育てをする親同士で話ができる仲間づくり	子育てに関する情報提供	子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを手伝う	災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする	子育てに関する悩みについて相談にのる	子どもや若者からの相談にのる	不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる
性別	女性	351	35.0	34.2	24.2	26.5	29.3	27.9	23.9	25.1	21.1	23.9
	男性	207	29.5	17.4	33.8	25.1	17.9	20.3	21.3	16.4	21.7	7.7
年代別	19～24歳	91	40.7	20.9	38.5	17.6	16.5	28.6	23.1	14.3	18.7	9.9
	25～29歳	109	33.9	23.9	28.4	24.8	25.7	17.4	25.7	18.3	24.8	19.3
	30～34歳	168	33.9	29.8	26.2	32.1	30.4	23.8	22.0	25.0	22.6	21.4
	35～39歳	195	27.7	31.8	23.6	25.1	24.1	28.7	22.1	24.1	19.5	17.9

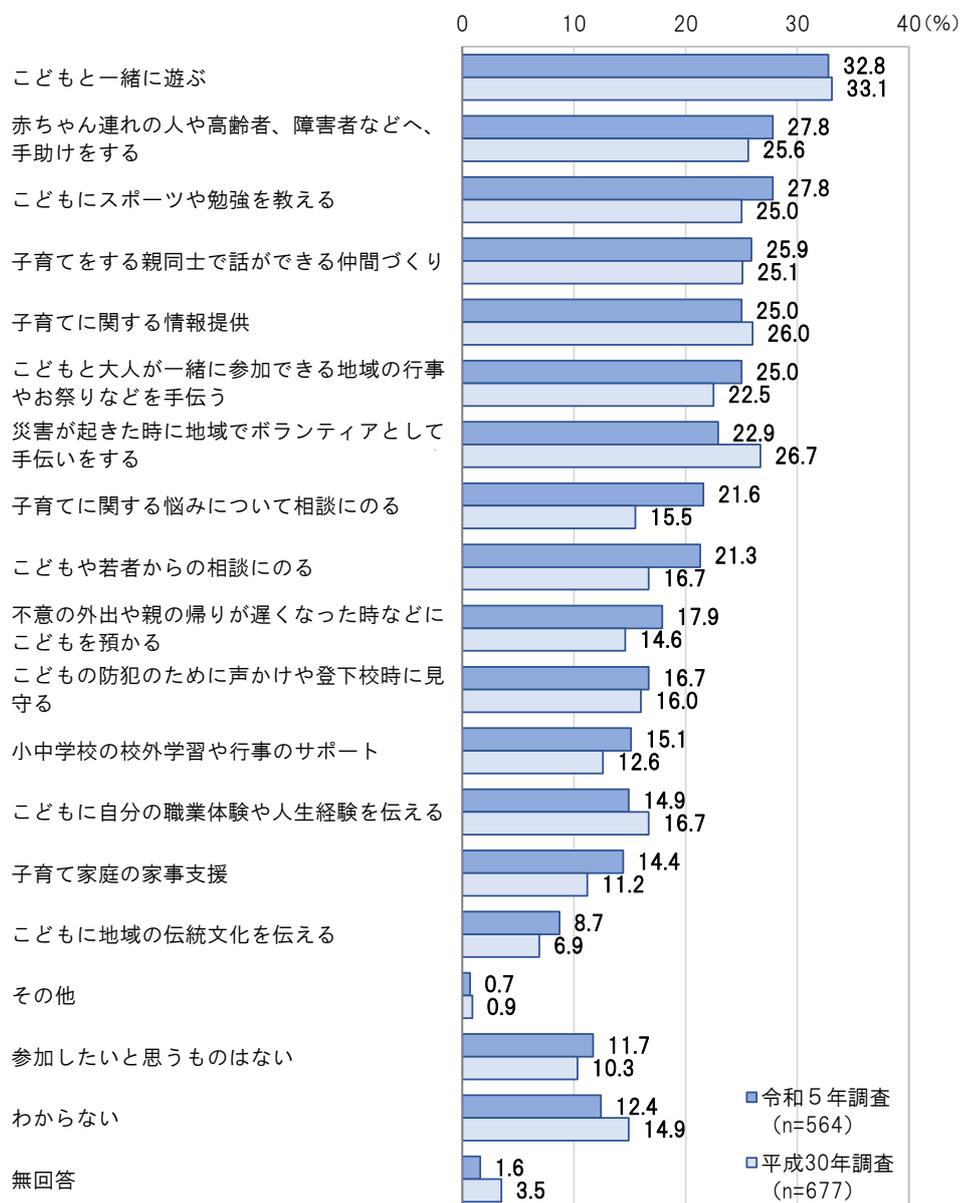
(つづき)		回答者数(人)	子どもの防犯のために声掛けや登下校時に見守る	小中学校の校外学習や行事のサポート	子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える	子育て家庭の家事支援	子どもに地域の伝統文化を伝える	その他	参加したいと思うものはない	わからない	無回答
性別	女性	351	20.2	17.4	14.2	17.4	8.3	1.1	10.3	12.3	1.4
	男性	207	10.6	11.1	15.9	9.2	9.2	-	14.5	11.6	1.4
年代別	19～24歳	91	13.2	19.8	15.4	5.5	13.2	1.1	17.6	11.0	2.2
	25～29歳	109	17.4	13.8	14.7	15.6	5.5	-	14.7	11.9	3.7
	30～34歳	168	14.9	13.1	12.5	14.9	6.5	0.6	7.1	16.1	-
	35～39歳	195	19.5	15.4	16.9	17.4	10.3	1.0	11.3	10.3	1.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《経年比較》

○平成30年調査と比較すると、ほとんどの項目で高くなっており、特に、「子育てに関する悩みについて相談にのる」では5ポイント以上高くなっている。

○一方で、「災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする」で、3.8ポイント低くなっている。

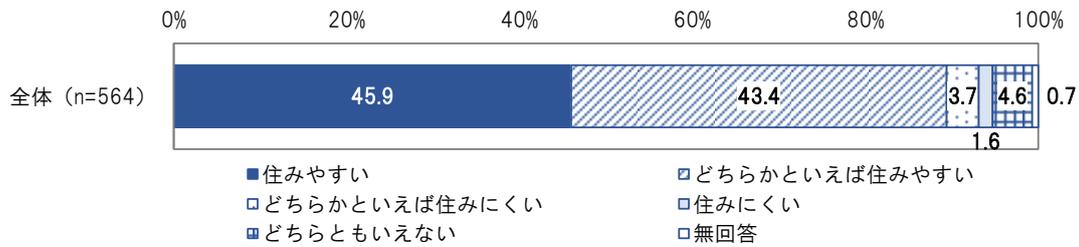


6. 茨木市での暮らしや意見について

(1) 茨木市の住みやすさの評価【問37 単数回答】

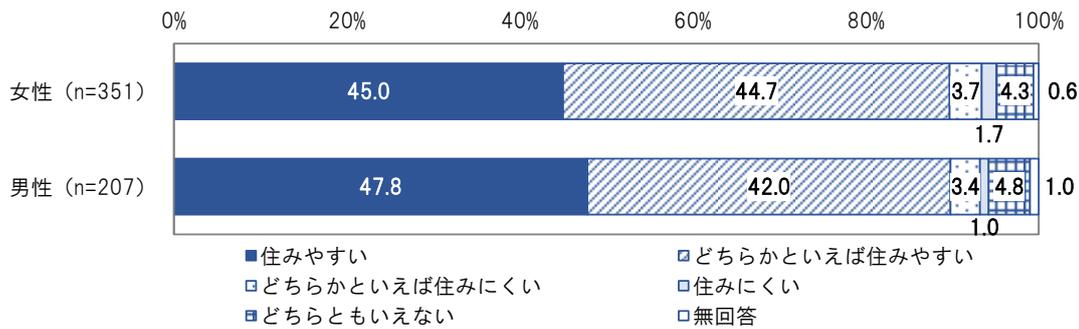
○茨木市の住みやすさの評価は、「住みやすい」が45.9%と最も高く、「どちらかといえば住みやすい」(43.4%)と合わせた『住みやすい』が9割近くを占めている。

○「どちらかといえば住みにくい」(3.7%)と「住みにくい」(1.6%)を合わせた『住みにくい』人は5.3%となっている。



《性別比較》

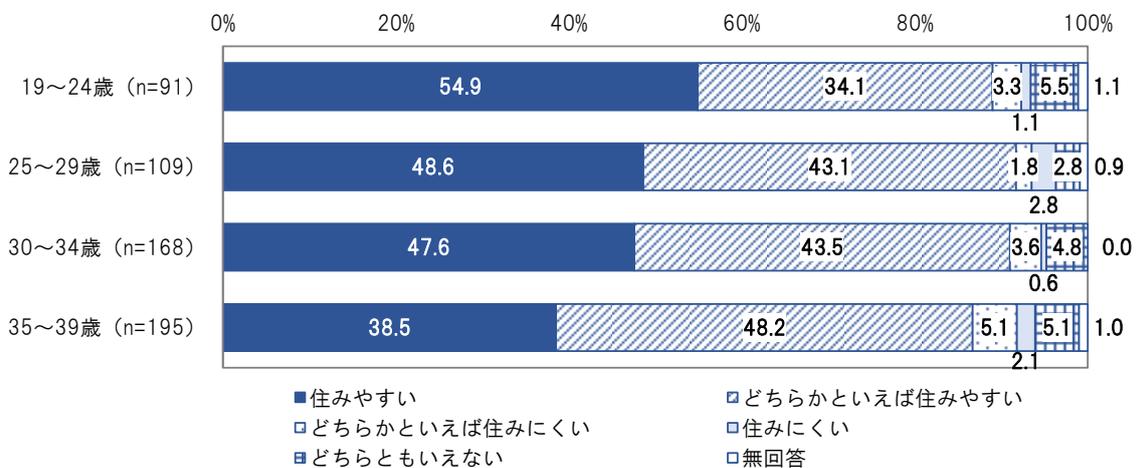
○性別による大きな差異はみられない。



《年代別比較》

○年代別にみると、年代が下がるにつれて「住みやすい」が高くなる傾向がみられる。

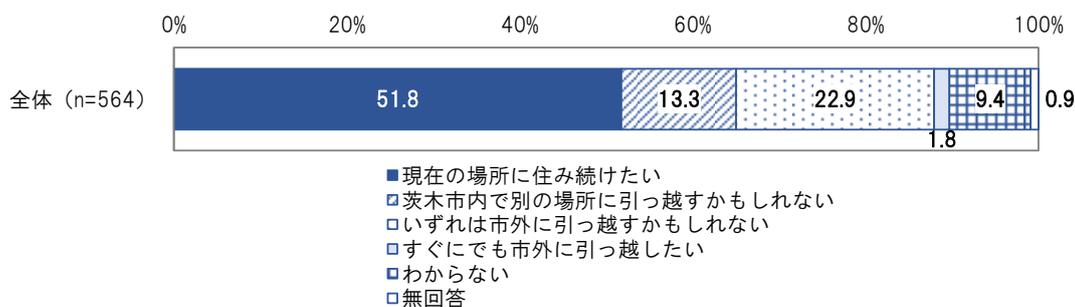
○「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた『住みにくい』の割合は、[35～39歳]で7.2%となっており、その他の年代に比べてやや高くなっている。



(2) 現在の居住場所での今後の居住意向【問 38 単数回答】

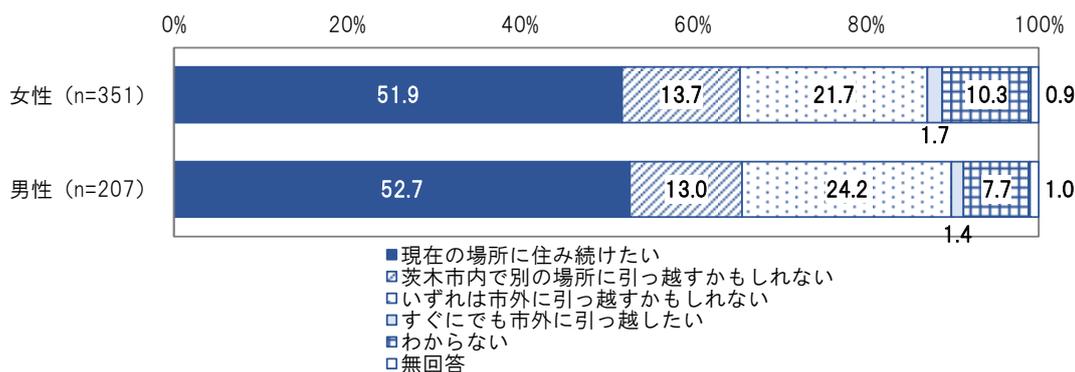
○現在の居住場所での今後の居住意向は、「現在の場所に住み続けたい」が51.8%と最も高く、「茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない」(13.3%)と合わせた『茨木市に住み続けたい』が6割以上を占めている。

○「いずれは市外に引っ越すかもしれない」(22.9%)と「すぐにでも市外に引っ越したい」(1.8%)を合わせた『市外に引っ越したい』人は2割以上となっている。



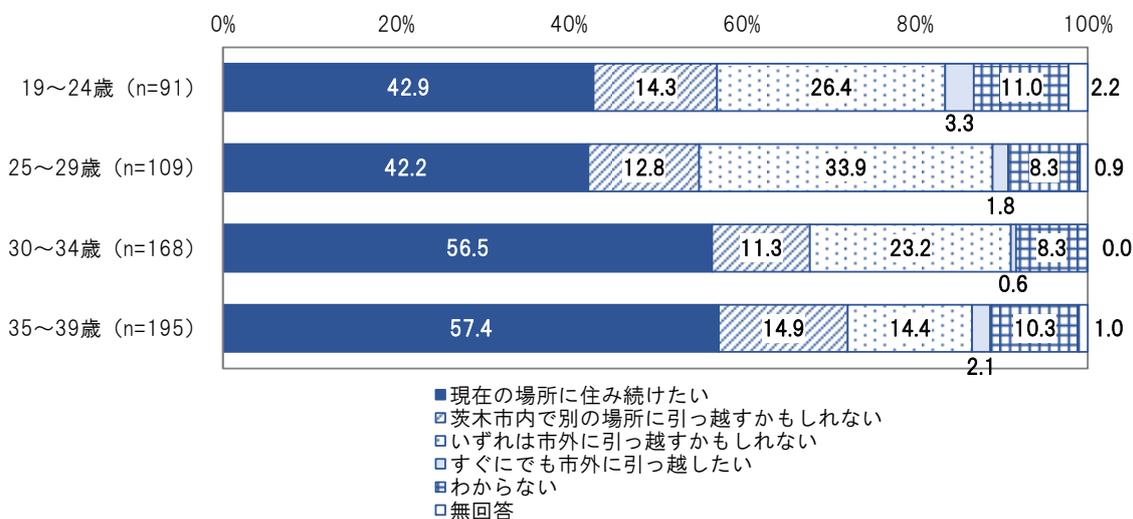
《性別比較》

○性別による大きな差異はみられない。



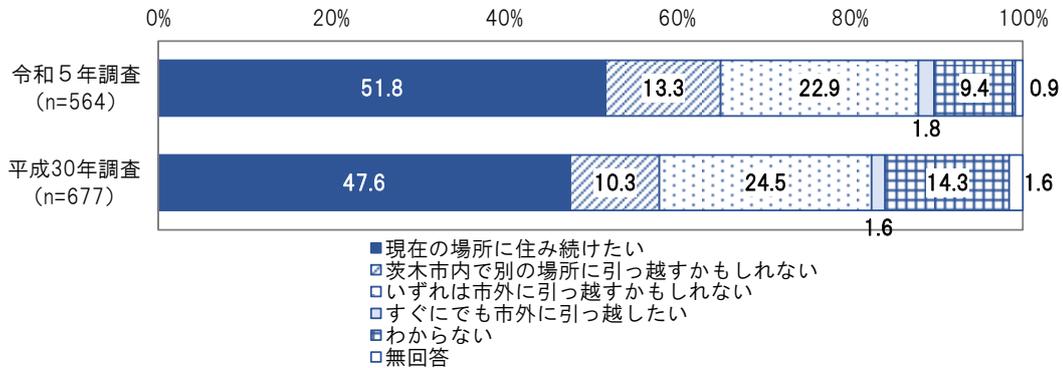
《年代別比較》

○年代別にみると、年代が上がるにつれて「現在の場所に住み続けたい」が高くなる傾向がみられる。また、[25～29歳]で『市外に引っ越したい』が3割を超えて高くなっている。



《経年比較》

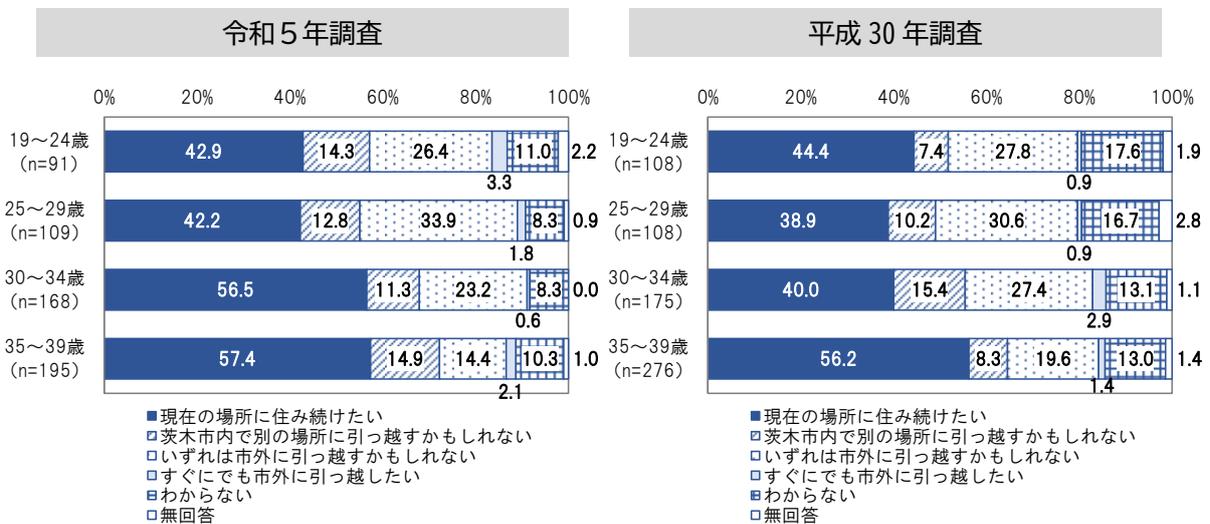
○平成30年調査と比較すると、「現在の場所に住み続けたい」および「茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない」が高くなっており、2つを合わせた『茨木市に住み続けたい』は、7.2ポイント高くなっている。



《経年比較：年代別》

○年代別で平成30年調査と比較すると、[25～29歳] および [30～34歳] で「現在の場所に住み続けたい」が高くなっており、特に [30～34歳] で15ポイント以上高くなっている。

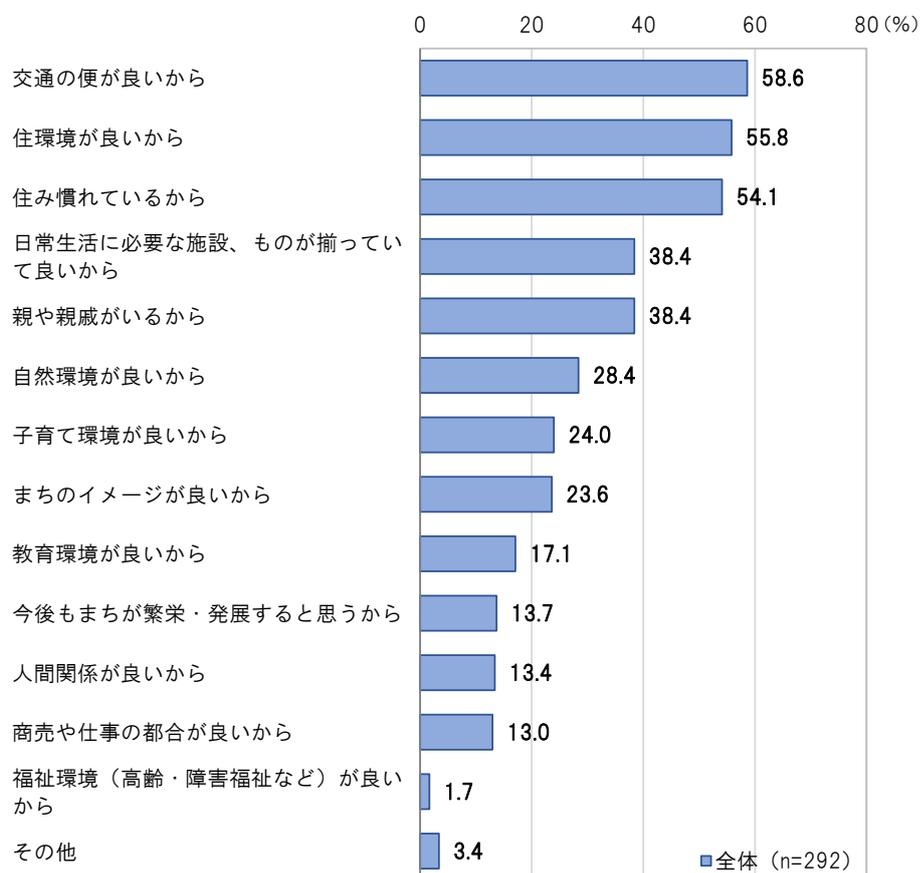
○また、「現在の場所に住み続けたい」と「茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない」を合わせた『茨木市に住み続けたい』は、すべての年代で高くなっている。



(2-1) 茨木市内に住み続けたい理由【問 38-1 複数回答】

※(2)で「現在の場所に住み続けたい」と回答した人のみ

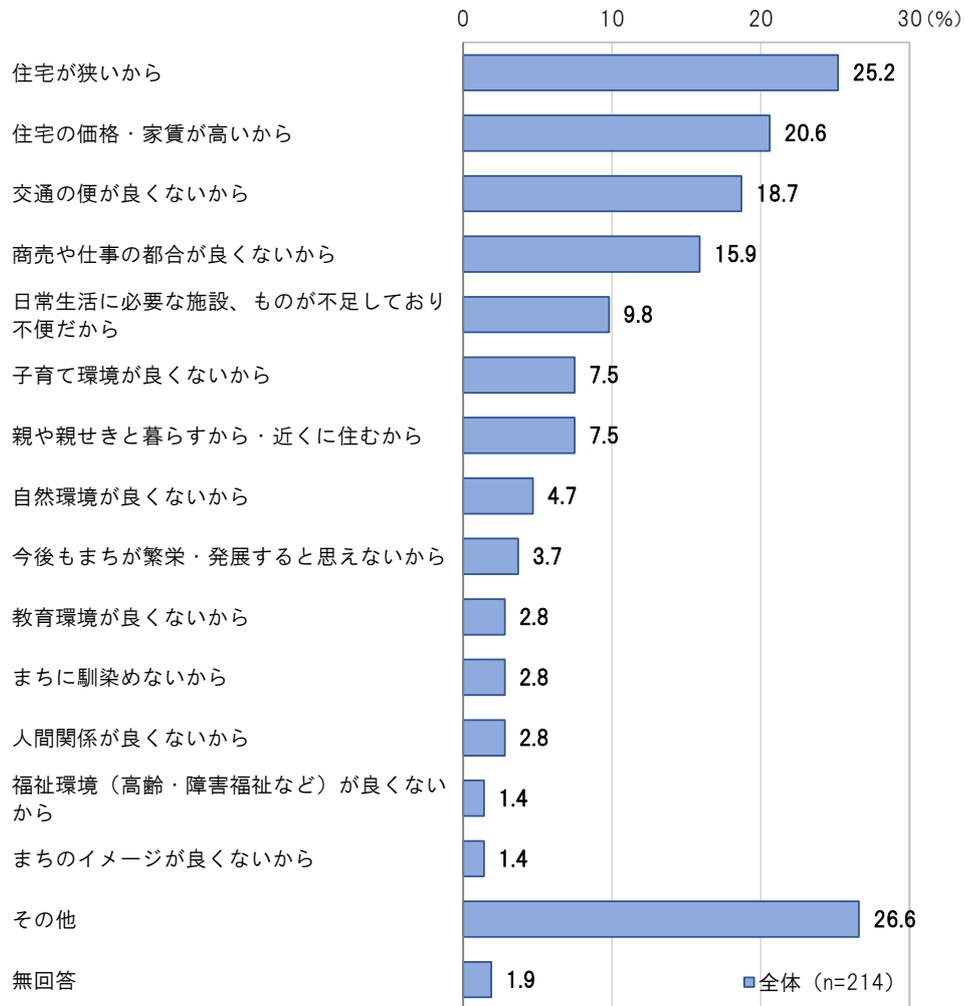
○茨木市内に住み続けたい理由は、「交通の便が良いから」が58.6%と最も高く、次いで「住環境が良いから」(55.8%)、「住み慣れているから」(54.1%)となっている。



(2-2) 別の場所や市外に引っ越すかもしれない理由【問 38-2 複数回答】

※(2)で「茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない」「いずれは市外に引っ越すかもしれない」「すぐにでも市外に引っ越したい」のいずれかを回答した人のみ

○別の場所や市外に引っ越すかもしれない理由は、「住宅が狭いから」が25.2%と最も高く、次いで「住宅の価格・家賃が高いから」(20.6%)、「交通の便が良くないから」(18.7%)となっている。



7. 自由意見

224 件（記入率：39.7%） 回答総数 293 件

意見の要点等	
① 生活環境について（64 件）	
	折角、南茨木駅を建て直したのに、活気が無い。駅前の発展。
	渋滞解消。
	自転車専用道の整備。
	大規模な商業施設の誘致。
	茨木市はゴミが落ちていたり、道路の整備されていない所も多いように感じる。
	マンションを増加し、人口を増やすのは良いが、道路をどうにかしてもらいたい。
② 子育て支援について（63 件）	
	子育てサポートの充実(病児保育や一時保育)。ベビーシッター事業拡大。
	療育の充実。
	子育てがしやすい参加しやすいイベントが増えればありがたい。
	今生まれている子も、今から生まれる子も、充実した生活を送れるような茨木市になってほしい。
	教育の質の向上など、将来の大人への投資を惜しまないでほしい。
	子育て支援を手厚くしてほしい。特に経済的な支援を重要視してほしい。
③ 市政・社会について（32 件）	
	子育て世代や高齢者だけでなく、独身社会人にも住んでいるメリットがほしい。
	就労がしやすい環境作りに特化した取組みや、勤めている会社で嫌なことがあった時に迷わずに相談することができるような活動を行ってほしいです。
	一般市民の要望を気軽に匿名で投稿できるシステム。
	限られた資源は未来のこどもたちに使うべき。
	茨木市を代表するもの等を作る。
	こどもだけでなく、しんどい状況にある方々を置いていかない人に優しいまちづくりを期待する。
	過剰な開発は避けてほしい。
	さまざまな相談窓口を1つに集約してほしい。
④ 地域のイベント・活動・交流について（23 件）	
	イベントをもっと多くしてほしい。もっと茨木市を他県の方に知ってもらいたい。
	無料の親子イベント(クリエイティブセンターでの”アソビバ”のような)。
	若者が参加したいイベントを、若者が作っていくイベントとして作っていけばもっと盛り上がるのでは。
	おにクルの活用をうまくできるよう、チラシ等で何があるのか、何ができるのか分かりやすく案内すべき。
	市内で行われるイベントなど、分かりやすくまとめたサイトがあると良い。

⑤ 公共施設について (23件)	
	子育て支援センターの分散。市の真ん中だけでなく、色々なところにあってほしい。茨木市は広いので、バスで行けるといっても生後間もない子を連れて行くハードルが高い。
	こどもが勉強できる自習スペースを作ってほしい。
	図書館を増やしてほしい。
	キッズスペースをもっと増やしてほしい。
	スポーツ施設などに力を入れてほしい、もっと交通の便の良いところに体育館を作ってほしい。
	施設の老朽化が目立つので、建て替えやリニューアルを積極的に実施していくべきだと思う。
⑥ 保育所・幼稚園等について (20件)	
	保育所が足りていない、増やしてほしい。
	待機児童を減らすために園を増やす、保育士を増やすなど、保育所に入所しやすくしてほしい。
	0歳～2歳の子が通える保育園を増やしてほしい。
	第二子以降の保育料無償化
	保育士の待遇改善等による市独自の保育制度の拡充。
⑦ 学校・教育について (19件)	
	小学校区を問わず、選択制(徒歩15分以上かかる子等)にしてほしい。
	公立小学校・中学校のソフト・ハード両面における進化。
	いじめ、不登校、ヤングケアラーの課題に徹底的に取り組んでほしい。
	学問、文化の市として教育に力を入れてもらいたい。
	芸術分野にも力を入れてほしい。
⑧ 医療について (11件)	
	こども医療証の延長(大学を卒業の時まで)
	小児の夜間救急が茨木市内にないのは不便。
	インフルエンザの予防接種も毎年助成金を出してほしい。
⑨ 公共交通機関について (11件)	
	バスの本数を増やしてほしい。
	駅の踏切を高架にしてほしい。
⑩ 情報提供について (4件)	
	こどもが未就学児で、ご近所とあまり付き合いがないため、小学校や学童についての情報があまり入ってこない。もっと情報を発信してほしい。
	市民がさまざまな形でイベントやまちづくりに関わる方法があると思うが、情報をどのように、どうやって手に入れたらいいかわからない。
⑪ その他 (23件)	
	茨木市内に発達検査ができる施設がもう少し増えたら嬉しい。
	「茨木市といえば」のようなシンボルになるようなものがあればいい。
	自然を大切にしたい取り組みを続けてほしい。

Ⅲ 調査結果からみえてきた今後の課題

1. 相談窓口・相談機関の周知

本市では、さまざまな相談窓口や相談機関が設置されている。相談窓口や相談機関の認知度では、「ハローワーク茨木（茨木公共職業安定所）」（77.3%）、「こども相談室」（48.2%）、「保健医療センター（こころの相談室）」（46.3%）では高くなっているものの、多くの相談機関を知らない人が多い状況にある。一方で、今後の利用意向ではすべての相談窓口・相談機関で2割以上の意向となっていることから、相談ニーズに応じて適切な窓口につながるよう、各相談窓口・相談機関で受けている相談内容や開設時間・相談方法等を含め、わかりやすく周知することが必要である。

2. 多様な相談方法・相談機能の充実

社会・日常生活を円滑に送ることができない状態となった時に相談したい人・場所として、「同じ悩みを持っている（持っていた）人」（50.4%）、「カウンセラー等の心理学の専門家であること」（30.7%）、「無料で相談できること」（27.7%）、「匿名で相談できること」（27.5%）、「同世代の人」（27.0%）などで高い割合となっている。本市の相談機関の中では、無料相談や匿名相談、同じ悩みを持っている人や同世代の人との関わり等を既に実施している機関もあることから、それぞれの相談窓口・相談機関の特徴なども合わせて広報・周知していく必要がある。

また、誰にも相談したくない理由では「相談しても解決できないと思うから」や「相手がどんな人かわからないから」が高くなっており、専門家による専門的な相談窓口だけでなく、同じような悩みを持つ人同士が支え合うピアカウンセリング、匿名による電話やSNS等を通じた相談などが望まれている。福祉や支援の介入が必要な事柄の場合、当事者や周囲からの相談が大きな第一歩となることから、さまざまな手法や媒体を用いて多様な相談の場や機会を設けることが必要である。

3. ヤングケアラー支援を進めるための相談機能の充実

ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、よく知らない」を合わせた『聞いたことがある』が約8割を占め、言葉の認知は進んでいる反面、自分の周りでヤングケアラーと思われるこどもは「いない」と回答した人が6割以上を占めている。

自身も周囲もこどもがいない層が多いことも考えられるが、ヤングケアラーの支援に向けては周りの人が気付くことから始まるものであることから、ヤングケアラーに対する正しい知識の普及が必要である。

また、周りでヤングケアラーと思われるこどもがいた場合に相談しやすくなるためには、「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」、「学校に相談窓口があること」、「24時間いつでも相談が可能であること」などが高くなっており、曜日や時間を気にせずに相談ができることや毎日の通学先（学校）で相談できることが必要である。加えて、上位項目以外でも「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」や「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」も4割を超えて高くなっており、相談するきっかけをつくるためには、相談から支援への流れなどの「見える化」を行っていく必要がある。

4. 将来に夢と希望を抱き、進みたい道を描けるための支援

国の15～39歳を対象とした調査に比べて、家族・親族とのかかわりではつながりを感じている人が多く、自身についてあてはまることにおいても親（保護者）から愛されていると思うと回答した人が9割以上を占める結果となっている。一方で、20年後の自身の姿では結婚していると思う人は8割未満、こどもを育てていると思う人は6割程度となっており、家族・親族とのかかわりは強い反面、自身が家庭や家族を持つことへの希望はやや低い。

「自宅をよくしていること」では、結婚をしている人においても「家事をする」「育児をする」の割合が女性に比べて男性は低く、男性の家事・育児への参加が依然として低いことから、男女共同参画に向けた取組が必要である。

また、自分の将来に明るい希望を持っている人の割合は、国調査と比べると10ポイント近く下回っており、特に19～24歳・35～39歳では低い結果となっている。また、年代が下がるほど自分は役に立たないと強く感じている人が多く、こどもの頃から自己肯定感を高める取組が必要である。

5. ひきこもりの長期化を防ぐための包括的な支援の充実

ひきこもりリスクのある人は2.1%と、前回調査（1.6%）に比べて微増している。年代別にみると[35～39歳]で高く、ひきこもりの状態になってからの期間が『10年以上』の方も約1割となっており、ひきこもりの長期化・高齢化が進んでいることが考えられる。

また、調査結果では、ひきこもり状態になった年齢は、20歳代後半以降で高く、そのきっかけとして妊娠や退職が多くなっているものの、次いで、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけとしている人も多くみられた。感染症の拡大をきっかけとして、テレワークやオンライン授業の推進が進んだ一方で、外出や活動の自粛等により社会とのつながりに変化があったことが考えられる。

ひきこもりの初期段階から学校関係者や地域の支援者、行政機関等が包括的に関わり、社会との関係を維持できる支援体制の充実が必要である。

6. 孤独・孤立を解消する居場所の確保・提供

孤立・孤独について、「自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」と感じている人が半数以上を占めており、「孤独である」と感じる人も半数以上を占めている。

また、地域の人とのかかわりを持っている人が少ない状況がみられた一方で、社会のために役立つことをしたいと思う人が8割以上を占めている。地域で子育てに関する活動の支え手として参加したいと思うものは、「こどもと一緒に遊ぶ」（32.8%）、「赤ちゃん連れの人や高齢者、障害者などへ、手助けをする」と「こどもにスポーツや勉強を教える」（27.8%）、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくり」（25.9%）等が高くなっている。地域等におけるこどもとのふれあいなど、多世代交流を通じて社会性や他者への思いやりを育むとともに、孤独・孤立を防ぐための支援策を充実していく必要がある。

茨木市 次世代育成支援に関するアンケート
(19～39歳対象)

【ご協力のお願いとお約束】

日頃より、本市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
茨木市では、次代の社会を担う子どもを育成し、その家族を支援するなどを目的とした「茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)」を策定し、さまざまな施策を実施しています。
現在の「茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)」が令和6(2024)年度末で終了することから、こども基本法に基づく「こども計画」や、子ども・若者育成支援推進法に基づく「子ども・若者計画」を含めた、本市のこども・若者支援に関する施策を総合的・計画的に推進するための新たな計画となる「茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)」(2025～2029年度)を策定することとしています。
本調査は、この新たな計画策定にあたって、次代を担う19歳から39歳のみなさんのご意見をうかがい、今後の取り組みに役立てるためのアンケートです。
ご回答いただいた内容は、行動計画の策定のみにご利用させていただくもので、他の目的に利用することは一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年10月 茨木市

***** アンケートの回答にあたって *****

- この調査は、インターネットでの回答(回答にかかる通信費はご自身の負担になります)も可能です。
下記のURLもしくは右の二次元コードからアクセスしていただき、アンケートフォームに直接回答を入力してください。
※回答にはWEB回答用のID【ibrk20001w】の入力が必要です。
<URL> <https://src.webcas.net/form/pub/src2/272116w>
(回答途中での一時保存も可能です。なお保存期間は1週間となりますのでご注意ください。)
- この調査には、封筒宛名のご本人さまがご回答ください。
- この調査は、令和5年4月1日を基準日として記入してください。ご回答が「その他」の場合ご回答は、回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。ご回答が「その他」の場合は、番号○をつけ、()内に具体的に記入してください。
- をつける数は、設問ごとに示してあります。○は1つ、○はいくつでもなどの○をつける数にご注意ください。

ご記入いただいた調査票は、**令和5年11月20日(月)**までに、

同封の封筒に入れて、**切手を貼らずにご返送**くださるようお願いいたします。

***** 調査についてのお問い合わせ *****

茨木市 こども育成部 電話：072-620-1625

※受付時間：午前8時45分～午後5時15分(土・日・祝日除く)



あなたご自身のことやご家族のことについてお聞きます

問1 あなたが思う自分の性別をお答えください。(○は1つ)

- 1 女性 2 男性 3 その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)
*今後のことも・若者施策の参考とするために必要なためお聞きしています。
あなたの自認する性にお答えください。回答を強制するものではありません。

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和5年4月1日現在)

- 1 19～24歳 2 25～29歳 3 30～34歳 4 35～39歳

問3 現在、あなたは結婚していますか。(○は1つ)

- 1 結婚している(事実婚を含む) 2 結婚していない

問4 現在、あなたと同居している方すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 父 2 母 3 きょうだい 4 祖父母
5 配偶者・パートナー 6 あなたのこども
7 その他() 8 同居家族はいない(単身世帯)

問5 あなたのご家庭で生計を立てているのは主に誰ですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送り生計を立てている方は、その仕送りをしている人をお答えください。(○は1つ)

- 1 あなた自身 2 父 3 母 4 配偶者・パートナー
5 きょうだい 6 祖父母 7 あなたのこども
8 その他の人() 9 生活保護など公的扶助(援助)を受けている

問6 現在、あなたの暮らしの状況をどのように感じていますか。(○は1つ)

- 1 大変苦しい 2 やや苦しい 3 普通
4 ややゆとりがある 5 ゆとりがある

問7 あなたが最後に在学していた、または現在在学している学校はどれですか。(○は1つ)

- 1 中学校・支援学校(中等部) 2 高等学校(全日制)・支援学校(高等部)
3 高等学校(定時制) 4 高等学校(通信制、サポート制)
5 専門学校 6 高等専門学校、短期大学
7 4年生大学・大学院 8 その他()

問8 あなたの現在の職業についてお答えください。(○は1つ)

- 1 正社員・正職員 2 契約社員
3 派遣社員 4 パート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)
5 自営業 6 自由業(個人で専門知識や技術を生かした職業)
7 学生(予備校生を含む) 8 家事専業(専業主婦・主夫)
9 家事手伝い 10 無職(仕事を探している)
11 その他()

問9 あなたの就業経験についてお答えください（パート・アルバイトを含む）。（○は1つ）

- 1 現在、就業している
- 2 現在就業しているが、休職や休業中である
- 3 現在は就業していないが、過去に就業経験がある
- 4 これまでに就業経験はない

あなたの日ごろの意識と生活についてお聞きます

問10 あなた自身について、次のことがらはどのくらいあてはまりますか。（○はそれぞれに1つ）

	あてはまる	あてはまる といえは	あてはまる かといえは	あてはまらない
① 自分には自分らしさというものがあると思う	1	2	3	4
② 自分の欲しいものを我慢することが苦手だ	1	2	3	4
③ 今の自分を変えたいと思う	1	2	3	4
④ 将来よりも今の生活を楽みたい	1	2	3	4
⑤ 努力すれば希望する職業につくことができる	1	2	3	4
⑥ 自分の将来は運やチャンスによって決まると思う	1	2	3	4
⑦ 人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う	1	2	3	4
⑧ 他人に迷惑がかららない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だと思う	1	2	3	4
⑨ 今の自分が好きだ	1	2	3	4
⑩ 自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ	1	2	3	4
⑪ 自分の親（保護者）から愛されていると思う	1	2	3	4
⑫ うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む	1	2	3	4
⑬ 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1	2	3	4
⑭ 自分自身に満足している	1	2	3	4
⑮ 自分は役に立たないと強く感じる	1	2	3	4

問11 あなたは今、自分が幸せだと思いますか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、1つに○）



問12 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所）になっていますか。（○はそれぞれに1つ）

	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえは	どちらかといえは	ほとんどない	ない
① 自分の部屋	1	2	3	4	5	
② 家庭（実家や親族の家を含む）	1	2	3	4	5	
③ 学校（卒業した学校を含む）	1	2	3	4	5	
④ 職場（過去の職場を含む）	1	2	3	4	5	
⑤ 地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）	1	2	3	4	5	
⑥ インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）	1	2	3	4	5	

問13 次のことがらについて、どのくらいの頻度で感じていますか。（○はそれぞれに1つ）

	常に ある	時々 ある	ほとん どない	決 して ない
① 自分には人とのつきあいがいと感ずることがある	1	2	3	4
② 自分を取り残されていると感ずることがある	1	2	3	4
③ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	1	2	3	4

問14 あなたは、どの程度、孤独であると感ずることがありますか。（○は1つ）

- 1 しばしばある・常にある
- 2 時々ある
- 3 たまにある
- 4 ほとんどない
- 5 決してない

問 15 家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえは	どちらかわからない	そう思わない
① 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
② 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
③ 楽しく話せるときがある	1	2	3	4
④ 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤ 他の人には言えない本音を話すことがある	1	2	3	4
⑥ いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 16 学校で出会った友人(現在通っている学校の友人、かつての同級生など)と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえは	どちらかわからない	そう思わない
① 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
② 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
③ 楽しく話せるときがある	1	2	3	4
④ 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤ 他の人には言えない本音を話すことがある	1	2	3	4
⑥ いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 17 職場・アルバイト関係の人(現在および過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など)とあなたのかかわりは、どのようなものですか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえは	どちらかわからない	そう思わない
① 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
② 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
③ 楽しく話せるときがある	1	2	3	4
④ 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤ 他の人には言えない本音を話すことがある	1	2	3	4
⑥ いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 18 地域の人(近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加しているNPO法人など)と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえは	どちらかわからない	そう思わない
① 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
② 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
③ 楽しく話せるときがある	1	2	3	4
④ 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤ 他の人には言えない本音を話すことがある	1	2	3	4
⑥ いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 19 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても基本的にはインターネット中心での付き合いの人やグループ）とあなたのかかわりは、どのようなものですか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえは	そう思わない
① 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
② 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
③ 楽しく話せるときがある	1	2	3	4
④ 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤ 他の人には言えない本音を話すことがある	1	2	3	4
⑥ いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 20 あなたは、他の人と付き合うとき、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。(○はそれぞれに1つ)

	あてはまる	あてはまるくらい	あてはまらない
① 誰とでもすぐ仲良くなれる	1	2	3
② 表情やしぐさで相手の思っていることがわかる	1	2	3
③ 親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る	1	2	3
④ その場に合った行動がとれる	1	2	3
⑤ 表情が豊かである	1	2	3
⑥ 気持ちを抑えようとしても、顔に出してしまう	1	2	3
⑦ 人にぶつかっても、あやまらないことがある	1	2	3

問 21 あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。(○は1つ)

1 そう思う	2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえは、そう思わない	4 そう思わない

問 22 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(○は1つ)

1 希望がある	2 どちらかといえば、希望がある
3 どちらかといえは、希望がない	4 希望がない

問 23 あなたは、20年後、どのようになっていると思っていますか。(○はそれぞれに1つ)

	そう思う	どちらかといえは	どちらかといえは	そう思わない
① お金持ちになっている	1	2	3	4
② 自由にのんびり暮らしている	1	2	3	4
③ 世界で活躍している	1	2	3	4
④ 多くの人の役に立っている	1	2	3	4
⑤ 有名になっている	1	2	3	4
⑥ 子どもを育てている	1	2	3	4
⑦ 親を大切にしている	1	2	3	4
⑧ 幸せになっている	1	2	3	4
⑨ 結婚している	1	2	3	4
⑩ 出世している	1	2	3	4
⑪ 仲間と仲良く暮らしている	1	2	3	4

問 24 あなたがだん自宅（暮らしている場所）にいるときによくしていることは何ですか。(○はいくつでも)

1 テレビを見る	2 ラジオを聴く	3 本を読む
4 新聞を読む	5 ゲームをする	6 勉強をする
7 仕事をす	8 家事をする	9 育児をする
10 介護・看護をする	11 インターネットをする	12 あてはまるものはない

問 25 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。現在のことをお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-------------------------------|---|-------------------|
| 1 | 仕事や学校で平日は毎日外出する | 2 | 仕事や学校で週3～4日は外出する |
| 3 | 遊び等で頻繁に外出する | 4 | 人付き合いのためにときどき外出する |
| 5 | ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみだけ外出する | | |
| 6 | ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける | | |
| 7 | 自室からは出るが、家からはでない | | |
| 8 | 自室からはほとんど出ない | | |

【問 25-1 ～ 問 25-3 については、問 25 で「5」～「8」のいずれかに回答した方に】

問 25-1 あなたの外出状況が現在の状態となつて、どのくらい怪しまりますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|----|-----------|
| 1 | 3か月未満 | 2 | 3か月～6か月未満 |
| 3 | 6か月～1年未満 | 4 | 1年～2年未満 |
| 5 | 2年～3年未満 | 6 | 3年～5年未満 |
| 7 | 5年～7年未満 | 8 | 7年～10年未満 |
| 9 | 10年～15年未満 | 10 | 15年以上 |

問 25-2 あなたの外出状況が現在の状態となつたのは、何歳の頃ですか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|--------|
| 1 | 14歳以下 | 2 | 15～19歳 | 3 | 20～24歳 |
| 4 | 25～29歳 | 5 | 30～34歳 | 6 | 35～39歳 |

問 25-3 あなたの外出状況が現在の状態となつた主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|----|------------------------|----|---------------------|
| 1 | 学校になじめなかつたこと | 2 | 小学校時代の不登校 |
| 3 | 中学校時代の不登校 | 4 | 高校時代の不登校 |
| 5 | 大学(専門学校、短期大学等含む)時代の不登校 | 6 | 受験に失敗したこと |
| 7 | 就職活動がうまくいかなかつたこと | 8 | 職場になじめなかつたこと |
| 9 | 人間関係がうまくいかなかつたこと | 10 | 病気(病名:) |
| 11 | 妊娠したこと | 12 | 退職したこと |
| 13 | 介護・看護を担うことになつたこと | 14 | 新型コロナウイルス感染症が流行したこと |
| 15 | その他 () | 17 | わからない |
| 16 | 特に理由はない | | |

すべての方にお聞きします。

問 26 最近6か月間に、家族以外の人と会話をしましたか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------|
| 1 | よく会話した | 2 | ときどき会話した |
| 3 | ほとんど会話しなかつた | 4 | まったく会話しなかつた |

問 27 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかつた経験がありますか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-------------------|---|--------|
| 1 | 今までに経験があつた(現在ある) | ⇒ | 問 28 へ |
| 2 | どちらかといえば、あつた(ある) | ⇒ | 問 28 へ |
| 3 | どちらかといえば、なかつた(ない) | ⇒ | 問 29 へ |
| 4 | なかつた(ない) | ⇒ | 問 29 へ |
| 5 | わからない | ⇒ | 問 29 へ |

【問 27 で「1」または「2」と回答した方に】

問 28 そうした経験をした(または現在経験している)主な原因は何だと思えますか。以下の(1)～(4)について、それぞれにお答えください。

(1) 自分自身について(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------------|----|---------|
| 1 | 人づきあいが苦手 | 2 | 精神的な病気 |
| 3 | 身体的な病気・ケガ | 4 | 妊娠 |
| 5 | 何事も否定的に考えてしまう | 6 | 勉強が苦手 |
| 7 | 悩みや不安などが相談できない | 8 | その他 () |
| 9 | 特にない | 10 | わからない |

(2) 家族・家庭について(○はいくつでも)

- | | | | |
|----|----------------|----|-----------------------|
| 1 | 家族内の不和や離別(離婚) | 2 | 家庭内での孤立(コミュニケーションが希薄) |
| 3 | 親(保護者)の過度な期待 | 4 | 親(保護者)の放任 |
| 5 | 親(保護者)の厳しいしつけ | 6 | 親(保護者)の虐待 |
| 7 | 親(保護者)の過干渉 | 8 | 親(保護者)の甘やかし |
| 9 | 親(保護者)への反発 | 10 | 家庭が貧しい |
| 11 | 家庭が裕福で生活の心配がない | 12 | 介護・看護(自分が担い手となっている) |
| 13 | その他 () | 14 | 特にない |
| 15 | わからない | | |

(3) 学校について(○はいくつでも)

- | | | | |
|----|------------------------|----|-----------------|
| 1 | 成績が悪い、授業についていけない | 2 | 先生との関係が悪い |
| 3 | 友達との関係が悪い | 4 | 校則に合わせるのが嫌 |
| 5 | 集団行動が苦手 | 6 | いじめを受けた |
| 7 | 体罰やハラスメントを受けた | 8 | 小学校時代の不登校 |
| 9 | 中学校時代の不登校 | 10 | 高校時代の不登校 |
| 11 | 大学(専門学校、短期大学等含む)時代の不登校 | 12 | 大学、短大、高専、高校等の中退 |
| 13 | 中学受験の失敗 | 14 | 高校受験の失敗 |
| 15 | 大学受験の失敗 | 16 | 不本意な入学 |
| 17 | その他 () | 18 | 特にない |
| 19 | わからない | | |

(4) 仕事・職場について (○はいくつでも)

- 1 職場になじめない
- 2 上司や同僚との関係が悪い
- 3 就職に失敗
- 4 職場を退職
- 5 職場を解雇
- 6 仕事上でのミス
- 7 仕事の量や内容が自分の能力を超えている
- 8 いじめ・ハラスメントを受けた
- 9 働きたくない
- 10 いわゆる「充電」の期間が必要
- 11 仕事が自分に向いていない
- 12 自分の才能や特技を生かせる仕事ではない
- 13 本当に自分がやりたい仕事ではない
- 14 その他 ()
- 15 特にない
- 16 わからない

問 28-1 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 家族や親族の助け
- 2 友人の助け
- 3 学校の先生に相談したこと
- 4 地域の人の助け
- 5 病院に行って相談したこと
- 6 相談できる場所に行って相談したこと
- 7 電話相談を利用したこと
- 8 SNS やメール相談などを利用したこと
- 9 スクールカウンセラーなどの学校にいる専門家に相談したこと
- 10 同じようになくいかなかった経験を話した人話してしたこと
- 11 就職・転職したこと
- 12 趣味の活動に参加したこと
- 13 時間がたって状況が変化したこと
- 14 自分の努力で乗り越えたこと
- 15 その他 ()
- 16 わからない

すべての方にお聞きします。

問29 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 同じ悩みを持っている(持っていた)人
- 2 同世代の人
- 3 同性の人
- 4 匿名で相談できること
- 5 電話で相談できること
- 6 SNS やメールなどで相談できること
- 7 曜日や時間を気にせず相談できること
- 8 相談できる場所が自宅から近いこと
- 9 自宅に来てくれて相談できること
- 10 無料で相談できること
- 11 公的な支援機関であること
- 12 民間の支援団体 (NPO など) であること
- 13 医師・医療機関であること
- 14 カウンセラー等の心理学の専門家であること
- 15 その他 ()
- 16 誰にも相談したくない

【問29で「16 誰にも相談したくない」と回答した方に】

問29-1 誰にも相談したくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 相談しても解決できないと思うから
- 2 自分で解決すべきことだと思うから
- 3 誰にも知られたくないことだから
- 4 変な人に思われるのではないかと不安
- 5 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから
- 6 相手がどんな人かわからないから
- 7 何を聞かれるのかわからないから
- 8 嫌なことをすすすように言われそうだから
- 9 相手にうまく伝えられなから
- 10 裏切られたり失望するの嫌だから
- 11 お金がかかると思うから
- 12 その他 ()
- 13 特に理由はない

すべての方にお聞きします。

問 30 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(○は1つ)

- 1 聞いたことがあります、内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 聞いたことはない

ヤングケアラーとは、「通学や仕事のかたわら、障害や病気のある親や祖父、年下のきょうだいなど、本来、大人が担うと想定されている家族のケアをしている18歳未満のこと」のことを言います。

家族のケアなどを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないうなど、子ども自身の権利が守られていない可能性があり、適切な支援が届くよう社会全体で取り組むことが必要と考えられます。また、ヤングケアラーの家族も、日々の生活でさまざまな悩みや困難を抱えていることがあり、社会の理解と支援が必要です。

問 31 あなたはヤングケアラーであつたとお思いですか。(○は1つ)

- 1 かつてそうであり、今現在も続いている
- 2 かつてはそうであつたが、今現在はそうではない
- 3 かつても、今現在もそうではない

問 32 家族・親族、友人、知人やその子どもなどに「ヤングケアラー」と思われることはありますか。(○は1つ)

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

問 33 仮に身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、どのような対応をしますか。(○はいくつでも)

- 1 関係機関に相談する
- 2 家族、知人、友人に相談する
- 3 本人の様子を聞く
- 4 その他 ()
- 5 わからない

問 34 「ヤングケアラー」と思われることもある場合、どのような仕組みや取り組みがあるかと相談しやすい環境づくりにつながると思いますか。(○はい/△も/×いいえ)

	(1) 認知度 知っている	(2) 利用の有無 利用している	(3) 今後の利用意向 利用したい
1 「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること			
2 学校に相談窓口があること			
3 市役所等の行政機関に相談窓口があること			
4 学校や市役所等の行政機関以外の専門機関に相談窓口があること			
5 対面での相談が可能であること			
6 電話・メール・SNSでの相談が可能であること			
7 24時間いつでも相談が可能であること			
8 相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと			
9 相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと			
10 「ヤングケアラー」の支援に関する法律や条例があること			
11 その他 ()			
12 特になし			

問 35 次のことも、若者を対象とした相談窓口や相談機関等について、(1) 知っているか、(2) 利用したことがあるか、(3) 今後利用したいか、についてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

	(1) 認知度 知っている	(2) 利用の有無 利用している	(3) 今後の利用意向 利用したい
① 保健医療センター (こころの相談室) ・ 自身や家族、友人に関する悩み相談 ・ 子ども相談室 ・ 子育てに関する全般的な相談支援	1	2	1
② 不登校児童生徒支援室「ふれあいルーム」 ・ 学校復帰に向けた自主学習、集団行動	1	2	1
③ 少年サポートセンター ・ 少年非行等に関する相談、指導、助言	1	2	1
④ 上中条青少年センター ・ 青少年に関する相談	1	2	1
⑤ 教育センター ・ 電話教育相談 ・ いじめホット電話相談 ・ こころの教室 ・ 奨学金相談	1	2	1
⑥ ハローワーク茨木 (茨木公共職業安定所) ・ 職業相談 ・ 職業紹介 ・ 職業訓練の促進	1	2	1

	(1) 認知度 知っている	(2) 利用の有無 利用している	(3) 今後の利用意向 利用したい
⑧ 三島地域若者サポートステーション ・ 就労相談 ・ 15~44歳までの若年無業者とその家族への就労に向けてのプログラム	1	2	1
⑨ 就職サポートセンター ・ 就労相談 ・ 職業適性診断 ・ 職業能力開発支援 ・ 就労体験	1	2	1
⑩ 子ども・若者自立支援センター「くろす」 ・ ひきこもり、ニート、不登校等の子ども・若者の状態改善に向けた本人とご家族への面談、居場所、訪問支援、同行支援	1	2	1
⑪ ユースプラザ ・ 子どもや保護者、若者への相談窓口	1	2	1
⑫ あけぼの学園 ・ 0~18歳を対象とした障害児相談	1	2	1
⑬ 障害者基幹相談支援センターの相談窓口 ・ 障害者やそのご家族への相談支援 (障害種別含む)	1	2	1
⑭ 茨木保健所 (精神保健福祉チーム) ・ うつ病、統合失調症、認知症、アルコール依存症などの精神的な病気 ・ ひきこもり相談	1	2	1
⑮ 男女共生センター ローズWAM ・ 女性、男性を取り巻く悩みに関する相談	1	2	1
⑯ ぐらしサポートセンター「あすてつが茨木」 ・ 就労支援 ・ 家計の相談 ・ その他生活全般に関する支援	1	2	1
⑰ 福祉事務所・教育委員会等の市役所の相談窓口 ・ 子ども政策課 (離婚前相談、ひとり親家庭の相談窓口、貸与 就労支援) ・ 生活福祉課 (生活保護に関する相談) ・ 学校教育推進課 (各小中学校による相談、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる相談)	1	2	1
⑱ 配偶者暴力相談支援センター ・ DV、デートDV、ストーカーなど親しい関係での暴力に関する相談	1	2	1
⑲ 大阪府吹田子ども家庭センター ・ 子ども、青少年に関する相談	1	2	1

地域の活動や子育てを支援する活動についてお聞きします

問 36 地域社会における子育てに関する活動の支え手として、あなたが参加したいと思うものはありますか。(〇はいくつでも)

- 1 子育てに関する悩みについて相談にのる
- 2 こどもや若者からの相談にのる
- 3 子育てをする親同士で話ができる仲間づくり
- 4 子育てに関する情報提供
- 5 子育てで家庭の家事支援
- 6 不意の外出や親の帰りが遅くなった時などにこどもを預かる
- 7 赤ちゃんと連れの人や高齢者、障害者などへ、ちょっとした手助けをする
- 8 こどもと一緒に遊ぶ
- 9 こどもにスポーツや勉強を教える
- 10 こどもに地域の伝統文化を伝える
- 11 こどもに自分の職業体験や人生経験を伝える
- 12 小中学校の校外学習や行事のサポート
- 13 こどもの防犯のために声かけや登下校時に見守る
- 14 こどもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを手伝う
- 15 災害が起きた時に地域でボランティアとして手伝いをする
- 16 その他 ()
- 17 参加したいと思うものはない
- 18 わからない

茨木市での暮らしや意見についてお聞きします

問 37 あなたは茨木市を住みやすいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 住みやすい
- 2 どちらかといえば住みやすい
- 3 どちらかといえば住みにくい
- 4 住みにくい
- 5 どちらともいえない

問 38 あなたは、今後も現在お住まいの場所に住み続けたいと思われませんか。(〇は1つ)

- 1 現在の場所に住み続けたい ⇒ 問38-1ハ
- 2 茨木市内で別の場所に引っ越すかもしれない ⇒ 問38-2ハ
- 3 いずれは市外に引っ越すかもしれない ⇒ 問38-2ハ
- 4 すぐにでも市外に引っ越したい ⇒ 問38-2ハ
- 5 わからない

【問 38 で「1 現在の場所に住み続けたい」と回答した方に】

問 38-1 茨木市内に住み続けたい理由は何か。(〇はいくつでも)

- 1 自然環境が良いから
- 2 住環境が良いから
- 3 交通の便が良いから
- 4 子育て環境が良いから
- 5 教育環境が良いから
- 6 福祉環境(高齢・障害福祉など)が良いから
- 7 商売や仕事の都合が良いから
- 8 日常生活に必要な施設、ものが揃って良いから
- 9 住み慣れているから
- 10 まちのイメージが良いから
- 11 親や親戚がいるから
- 12 人間関係が良いから
- 13 今後ままちが繁栄・発展すると思うから
- 14 その他 ()

【問 38 で「2」～「4」のいずれかを回答した方に】

問 38-2 市内の別の場所や市外に引っ越すかもしれない理由は何か。(〇はいくつでも)

- 1 自然環境が良くないから
- 2 住宅が狭いから
- 3 住宅の価格・家賃が高いから
- 4 交通の便が良くないから
- 5 子育て環境が良くないから
- 6 教育環境が良くないから
- 7 福祉環境(高齢・障害福祉など)が良くないから
- 8 商売や仕事の都合が良くないから
- 9 日常生活に必要な施設、ものが不足しており不便だから
- 10 まちに馴染めないから
- 11 まちのイメージが良くないから
- 12 親や親せきと暮らすから・近くに住むから
- 13 人間関係が良くないから
- 14 今後ままちが繁栄・発展すると思えないから
- 15 その他 ()

すべての方にお聞きします。

問 39 最後に、茨木市をより魅力あるまちにしていきたいために、続けてほしい取り組みや、具体的な取り組みがあればいいなと思うことがありましたら、ご自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査結果報告書
(19～39歳)

令和6(2024)年3月

茨木市 こども育成部 こども政策課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号

TEL : 072-620-1625

FAX : 072-622-8722

Mail : kodomoseisaku@city.ibaraki.lg.jp